甲府市文化財調査報告53

塩部遺跡

（朝日小学校構内）

― 朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書 ―

2010

甲府市教育委員会

序

甲府市立朝日小学校が位置する塩部の地名は、水に塩気が含まれるので「塩部」といわれたと甲斐国志に記述があり、約800年前の京都醍醐寺の文献に「甲斐国巨摩郡塩戸庄」と記載がある古い地名です。近年の埋蔵文化財の発掘調査では、遺跡範囲の中央部から約2000年前の弥生時代の集落が確認され、さらに古墳時代、平安時代、中世の遺構・遺物が発見されています。

今回の調査区である朝日小学校の場所は、塩部遺跡の北東辺にあたりますが、東側を流れる相川を境として甲府城下町遺跡に接する土地です。近年発見された江戸時代前期の甲府城下町絵図の研究により、小学校北側の東西の通りが江戸時代初期の甲州道中であったこが解明されました。この絵図には一里塚と古三日市場の名前がみられ、江戸時代初期は交通の要所であったとものと考えられます。

発掘調査では、平安時代を中心とする井戸・溝などの遺構と、縄文時代から中世までの遺物が出土し、朝日小学校の歴史の一端が確認されました。また、朝日小学校５年生による郷土史学習の一端として、発掘現場の見学という貴重な機会に恵まれました。歴史を身近に体験し郷土の文化・歴史をよりよく理解する場として、今後学校教育・生涯学習教育の場として有効活用していただければ幸甚です。

末筆となりましたが、この度の発掘調査に際し、貴重な歴史遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた関係各位に、感謝申し上げるとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成22年11月

甲府市教育委員会
教育長　長谷川 義高

例　言

1．本書は山梨県甲府市塩部一丁目４番１号における塩部遺跡（朝日小学校構内）の発掘調査報告書である。
2．本発掘調査は学校建設に伴うものであり、工事主体者の甲府市教育委員会が主体となり実施した。調査の一部は同教育委員会より委託を受けた昭和測量株式会社が行った。
3．調査担当は志村憲一（甲府市教育委員会文化振興課文化財主事）が担当した。本調査及び報告書作成業務に関しては、甲府市教育委員会文化振興課文化財主事志村憲一の指揮監督のもと、受託者の昭和測量株式会社文化財調査部髙野高潔が担当した。
4．発掘調査の期間及び面積は以下のとおりである。
　　試掘調査：期間　平成21年８月８日から同年８月11日、面積22㎡
　　本　調　査：期間　平成22年２月22日から同年４月24日、面積430㎡
5．基準点測量は昭和測量株式会社が行った。測量成果は世界測地系とした。
6．表土除去および埋め戻しに伴う建設機械の操作・運転は丸加工業有限会社が行った。
7．発掘調査参加者
新谷和美、飯室恵子、菊島正博、小島健治、小林としみ、佐藤高正、竹野章、田中博之、中澤保、原田隆邦、原田みゆき、広瀬ありさ、松原静夫、村田勝利、望月明、望月太喜雄、渡辺麗子（五十音順、敬称略）
8．本書の執筆と編集は、第１章第１節・２節、第４章第２節を志村憲一が担当し、その他を甲府市教育委員会の指導のもと髙野高潔（昭和測量株式会社）が担当した。
9．本書に係わる出土遺物、図面、写真及びその他の諸記録は、甲府市教育委員会が保管している。
10．整理作業参加者　北野礼子、齋藤里美、山田忠、渡辺麗子（五十音順、敬称略）
11．発掘調査及び報告書作成の過程でご指導ご協力を賜った機関、諸氏を以下に記して御礼申し上げる。
山梨県教育委員会学術文化財課、社会保険山梨病院、中山誠二、山本基礎工業株式会社（敬称略）

凡　例

1．本書に掲載した図３調査地の位置図は、大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000地形図甲府近傍七号「松嶋村」（明治42年10月鉄道補測発行）、八号「甲府」（明治43年１月鉄道補測発行）を使用して作成した。図４塩部遺跡周辺の遺跡分布図は、国土地理院発行（平成14年６月１日発行）の数値地図25000（地図画像）「甲府」所収「甲府北部」、「甲府」を使用して作成した。
2．遺構平面図の座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
3．遺構断面図の土層色調及び遺物観察表中の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修2004『新版標準土色帖』（26版）に基づいて表記した。
4．遺構、遺物図の縮尺は以下を基本とした。また、挿図中の尺度にも縮尺を付記した。
　　遺構：調査区全体1/160、溝平面1/80・セクション1/40、井戸1/20、ピット1/20
　　遺物：土器・土師器・須恵器・陶磁器1/3、石器2/3、木製品1/4
5．本書に使用した記号及びスクリーントーンは以下のとおりである。
　　遺物：須恵器断面■　陶器断面□　黒色範囲■　赤色範囲　釉範囲　焼継範囲

目　次

第１章　調査概要
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　試掘調査……1
第３節　調査方法と経過……2
第２章　調査遺跡の環境
第１節　地理的歴史的環境……3
第２節　基本土層……6
第３章　遺構と遺物
（１）　溝……8
（２）　井戸……15
（３）　ピット……16
（４）　遺構外出土遺物……17
第４章　結語
第１節　遺構と遺物の検討……20
第２節　塩部遺跡における調査区……20
遺物観察表……21
写真図版

挿図目次

図１　試掘トレンチ出土遺物……1
図２　試掘トレンチ・本調査範囲位置…2
図３　調査地の位置……3
図４　塩部遺跡周辺の遺跡分布……5
図５　基本土層……6
図６　調査区全体……7
図７　１号溝・出土遺物……8
図８　２号溝・出土遺物……9
図９　３号溝・出土遺物……10
図10　４号溝……11
図11　４号溝出土遺物（１）……12
図12　４号溝出土遺物（２）……13
図13　６号溝……14
図14　１号土坑・出土遺物……15
図15　１号～５号ピット……16
図16　遺構外遺物出土位置……17
図17　遺構外出土遺物（１）……18
図18　遺構外出土遺物（２）……19

写真図版目次

図版１　調査区全景、１号～４号・６号溝、１号井戸
図版２　試掘出土遺物、１号～３号・４号溝（１）出土遺物
図版３　４号溝（２）出土遺物、１号井戸出土遺物
図版４　遺構外出土遺物

第１章　調査概要

第１節　調査に至る経緯

甲府市塩部一丁目４番１号地点の甲府市立朝日小学校構内の調査は、小学校校舎建て替えに伴い実施したものである。文化財保護法に基づき平成21年７月27日付けで甲府市長宮島雅展より埋蔵文化財発掘の届出が提出された。その後山梨県教育委員会教育長より、教学文第1270号により周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知を受け、発掘調査を実施する運びとなった。

試掘調査は平成21年８月８日から同年８月11日にかけて、建物予定地６ヶ所にトレンチを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、建設予定地の東側３ヶ所のトレンチから古墳・平安の土師器と中世の遺物が出土し、遺構が存在する可能性が強まった。建設予定の建物は深度まで基礎が及ぶことから、遺構・遺物の保護を図ることは困難であると判断し、本調査を実施することとなった。

本調査に際しては、事業主体者である甲府市教育委員会文化振興課の指導監督のもと、昭和測量株式会社に発掘調査業務を委託し、平成22年２月22日付けで両者の間で委託契約を締結し、同年２月22日から４月24日までの約２ヶ月間本調査を実施した。さらに発掘調査終了後、平成22年６月18日に発掘調査を行った上記業者に整理作業に関する委託契約を締結し、平成22年６月21日から同年11月19日までの期間、整理作業及び報告書作成業務を実施した。

なお今回の本調査の際は、総合学習の一環として同小学校５年生を対象とし、平成22年４月20日現場見学会を実施した。見学会は発掘現場の状況と発掘出土品を観覧し、朝日小学校の古代の様相と学校周辺に広がる塩部遺跡の歴史について学習した。

第２節　試掘調査（図１・２、図版２）

試掘調査は建物予定地に幅1.5m、長さ２～3.4mのトレンチを６ヶ所設定し、機械及び人力にて深さ0.9～1.9m掘削を行い、遺物包含層及び遺構の有無を確認した。建物予定地西側の１～３トレンチの３地点は、土師器の小片が数点検出されたのみであり、各堆積層からは遺構は確認されなかった。建物東側の４～６トレンチの３地点に関しては、地表下0.7～１mより下層に位置する黒色粘質土層から、古墳・平安・中世の遺物が出土した。特に５トレンチの地表下0.7m、６トレンチの地表下１m地点に位置する第３層の黒色粘質土層からは、古墳時代の土師器が集中して検出されたことから、この５・６トレンチを中心とした周辺に遺構が存在する可能性が強まり、本調査の対象地とした。

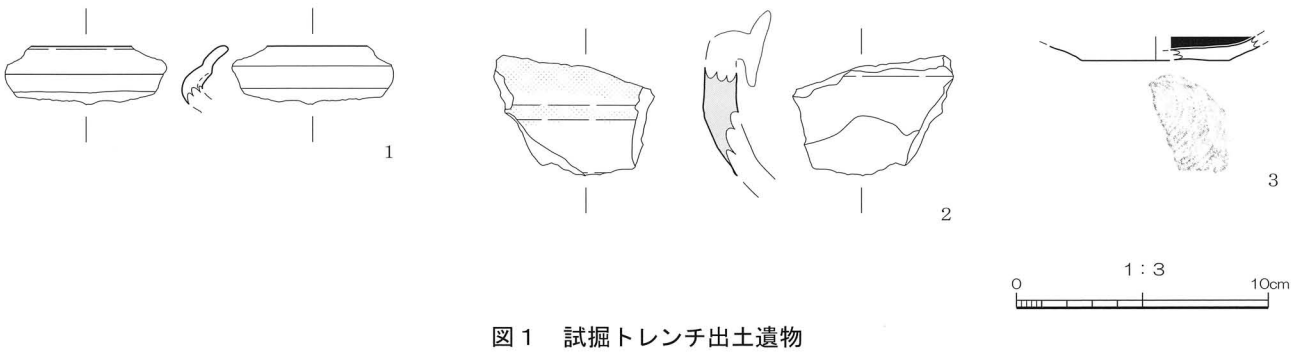


図１　試掘トレンチ出土遺物

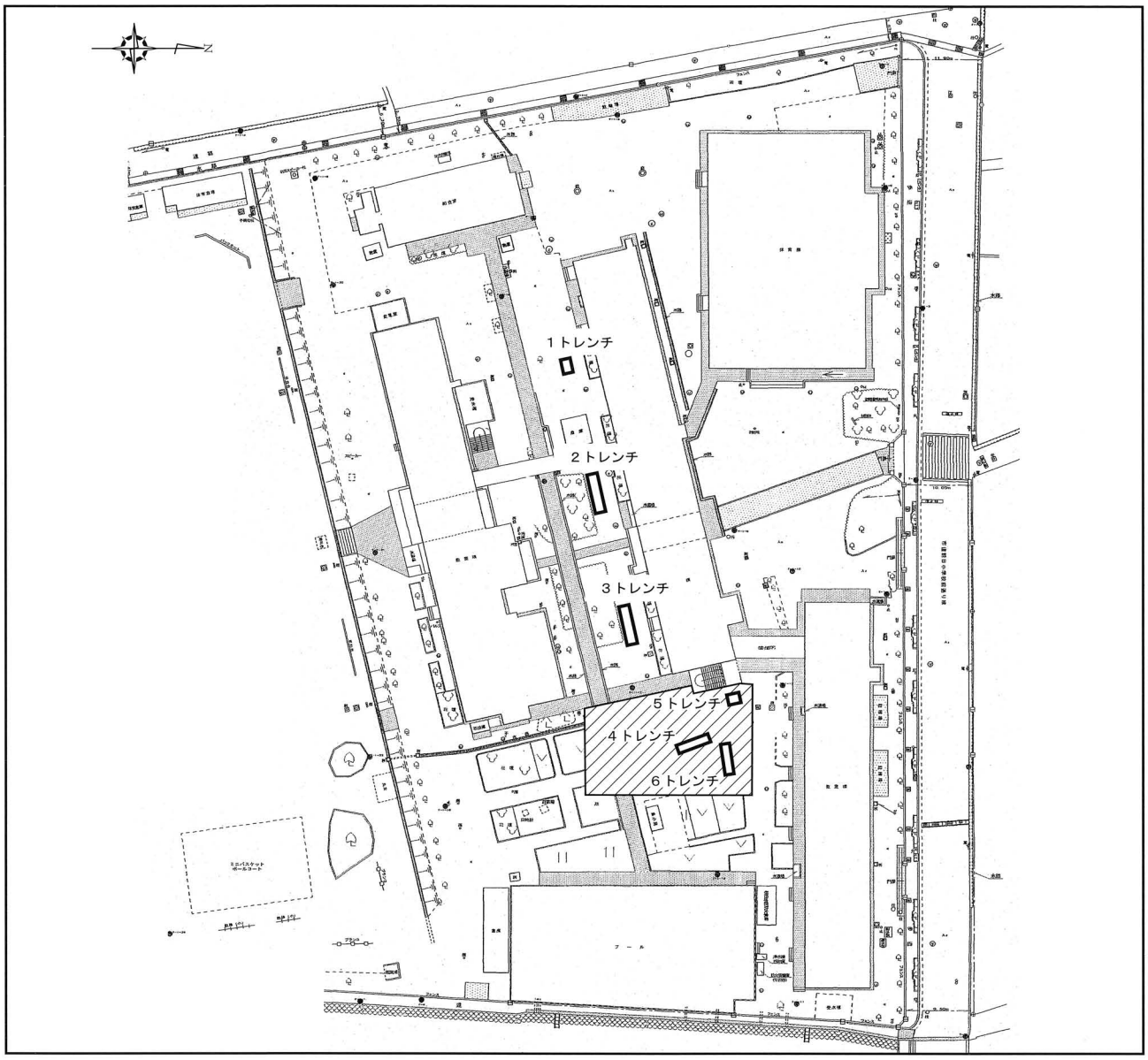


図２　試掘トレンチ・本調査範囲位置

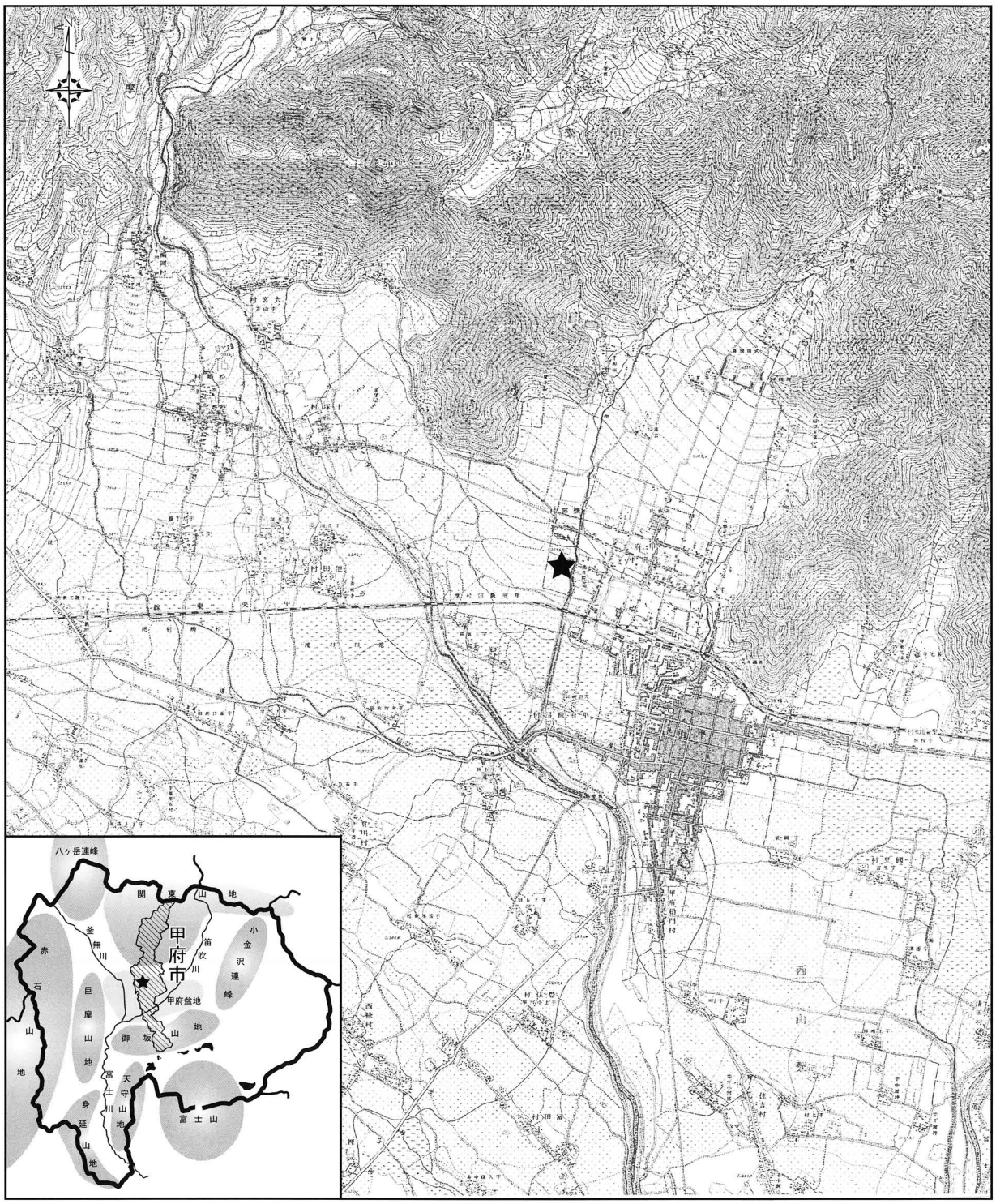
第３節　調査方法と経過

発掘調査は平成22年２月22日から同年４月24日まで実施した。２月25日に調査区の安全柵を設置し、３月１日から２日に重機による表土除去を行なった。３月３日から基準点測量を行ない、調査区にグリッドを設定して、人力による精査を開始した。グリッドは調査区北東隅を起点として４ｍ方眼を設定し南北にアルファベット、東西に数字の名称を付して「１Ａグリッド」のように呼称した。遺構は検出順に番号を付した。なお５号溝は風倒木痕と判断し途中で欠番とした。遺構の位置、形状、土層断面はトータルステーションと手実測を併用して記録した。包含層及び遺構で検出された遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録した。小破片については各遺構又はグリッドの一括出土遺物として取り上げた。遺構、遺物の写真撮影は35mm判カメラ（カラーネガ）と一眼レフデジタルカメラを使用して実施した。４月20日に遺跡完掘状況の調査区全景写真を撮影した。４月21日から重機による埋め戻しを行ない、４月24日に安全柵の撤去を行なった。整理作業および報告書作成は平成22年6月21日から同年11月19日まで実施した。

第２章　調査遺跡の環境

第１節　地理的歴史的環境（図３・４）

調査対象の塩部遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる。北方には関東山地の主要部である標高2,000～2,500m級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部の緩傾斜面上に立地している。相川中流域の右岸に面し、標高は約280mである。



★ 調査地（塩部遺跡：朝日小学校構内）

図３　調査地の位置

塩部遺跡の遺跡範囲は東西約500ｍ、南北約700ｍの規模で周知されている。塩部遺跡では現在までにも別地点での発掘調査が実施されている。従前の報告ではまず県立甲府工業高校校庭出土土器として古墳時代の遺物が昭和43年の山本寿々雄氏の著作に見られる。平成６・７年に山梨県埋蔵文化財センターが調査した県立甲府工業高等学校改築に伴う発掘調査地点（２）では弥生時代～古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は方形周溝墓、住居、用水路、旧河道などがある。平成13～14年に甲府市教育委員会が調査した「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（３）では主に弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。遺物には縄文土器も出土している。平成14～16年に甲府市教育委員会が調査した「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（４）では弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。平成20年に甲府市教育委員会が調査した店舗建設に伴う発掘調査地点（５）では弥生時代～平安時代の遺構遺物が出土している。遺構は住居、溝などがある。以上から塩部遺跡では縄文時代から人の活動が認められ、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代を通して集落が営まれていたといえる。

その後の中世では塩部郷と呼ばれ、平安時代末期の塩部郷の領主は武田有義であったとされている。有義の子有信以後は塩部氏の本拠地であったと推定されている。また文治二(1186)年の醍醐寺文書目録（醍醐雑事記）には「甲斐国巨摩郡塩部庄」がみえるが、詳細は不明とされる。

永正十六(1519)年武田信虎の拠点移転に伴い築かれた戦国期の武田城下町では、塩部遺跡は城下町の西の出入口付近に位置することとなる。

近世では塩部村と呼ばれ甲府城下町の西側に隣接している。文禄年間(1592～1596年)には塩部村民が甲府城下町内の上府中横沢町周辺へ移住させられ、村民の居住地が田畑から離されることになったが、天明年間(1781～1789年)に帰村が許されたとされている。帰村後の塩部村の集落は関屋往還に沿って形成されている。以上のように塩部遺跡では平安時代以後も中世・近世を通して集落が営まれ、武田信虎の拠点移転以後は城下町に隣接する集落となっていったことがわかる。

次に、塩部遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として緑が丘一丁目遺跡(６)、宝町遺跡(７)、榎田遺跡(８)から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡(９)では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として緑が丘二丁目遺跡(10)、金塚西遺跡(11)、音羽遺跡(12)、西大阪Ａ遺跡(13)、西河原遺跡(14)、宮北遺跡(15)、食糧工場遺跡(16)、居村村上遺跡(17)などが知られている。

弥生時代から古墳時代の遺跡としては榎田遺跡(８)、音羽遺跡(12)、富士見遺跡(18)、青沼遺跡(19)、平石遺跡(20)、向田Ａ遺跡(21)、三光寺山遺跡(22)、八幡東遺跡(23)、神田遺跡(24)、跡部遺跡(25)、天神北遺跡(26) 、伊勢町遺跡(27)、湯田一丁目遺跡(28)などがある。榎田遺跡(８)、音羽遺跡(12)、青沼遺跡(19)では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡(18)では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡(８)では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。

また塩部遺跡の北側の湯村山周辺、北西側の千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もしくは存在していたことが推定されている。６世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳（東西約31ｍ、南北約38ｍ、高さ約５ｍ）(29)、６世紀後半の築造と考えられ石室全長16.75ｍという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟

☆1 塩部遺跡(朝日小学校構内)
2 塩部遺跡(H6・7年調査)
3 塩部遺跡(H13～14年調査)
4 塩部遺跡(H14～16年調査)
5 塩部遺跡(H20年調査)
6 緑が丘一丁目遺跡(縄文～平安)
7 宝町遺跡(縄文・平安)
8 榎田遺跡(縄文～平安)
9 上石田遺跡(縄文)
10 緑が丘二丁目遺跡(縄文～平安)
11 金塚西遺跡(縄文・古墳)
12 音羽遺跡(縄文～平安)
13 西大阪A遺跡(縄文)
14 西河原遺跡(縄文・平安)
15 宮北遺跡(縄文・平安)
16 食糧工場遺跡(縄文～弥生)
17 居村村上遺跡(縄文・平安)
18 富士見遺跡(古墳～平安)
19 青沼遺跡(古墳～平安)
20 平石遺跡(弥生～平安)
21 向田A遺跡(弥生～古墳)
22 三光寺山遺跡(古墳)
23 八幡東遺跡(弥生～古墳)
24 神田遺跡(弥生～平安)
25 跡部遺跡(古墳)
26 天神北遺跡(古墳・平安)
27 伊勢町遺跡(古墳)
28 湯田一丁目遺跡(古墳)
29 万寿森古墳(古墳)
30 加牟那塚古墳(古墳)
31 湯村山一号墳(古墳)
32 湯村山二号墳(古墳)
33 湯村山三号墳(古墳)
34 湯村山四号墳(古墳)
35 湯村山五号墳(古墳)
36 湯村山六号墳(古墳)
37 大平一号墳(古墳)
38 大平二号墳(古墳)
39 穴塚古墳(古墳)
40 秋山氏館跡(平安～中世)
41 村之内遺跡(古墳～平安)
42 永井遺跡(古墳～平安)
43 十二天遺跡(平安)
44 天神平遺跡(平安)
45 若宮前遺跡(平安)
46 御蔵遺跡(古墳・平安)
47 西大阪B遺跡(平安)
48 前田遺跡(平安)
49 南河原A遺跡(平安)
50 南河原B遺跡(平安)
51 南河原C遺跡(平安)
52 南河原D遺跡(平安)
53 村西遺跡(縄文・平安)
54 武田氏館跡(中世)
55 湯村山城(中世)
56 法泉寺山の烽火台(中世)
57 小松山の烽火台(中世)
58 武田城下町遺跡(中世)
59 甲府城下町遺跡(近世)
※1～5 58 59

図4　塩部遺跡周辺の遺跡分布

那塚古墳（直径約45m、高さ約７m）（30）などが代表とされる。その他にも積石塚で円墳の湯村山一号墳（直径約15m、高さ約2.5m）（31）、円墳の湯村山二号墳（直径約14.5m、高さ約5.5m）（32）、円墳の湯村山三号墳（直径約15.3m、高さ約2.5m）（33）、円墳の湯村山四号墳（直径約14.3m、高さ約2.5m）（34）、円墳の湯村山五号墳（直径約13m）（35）、円墳の湯村山六号墳（直径約10.4m）（36）、円墳の大平一号墳（直径約20m）（37）、円墳の大平二号墳（直径約15.9m、高さ約2.2m）（38）などがある。また塩部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳（39）がある。

山梨県内で３位の石室規模を誇る万寿森古墳（29）、２位の加牟那塚古墳（30）のほか多くの大型古墳が所在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で１位の姥塚古墳（６世紀後半築造、円墳、直径約40m、高さ約10m、石室全長17.54m）を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎田遺跡（８）、音羽遺跡（12）、青沼遺跡（19）、平石遺跡（20）、秋山氏館跡（40）、村之内遺跡（41）、永井遺跡（42）、十二天遺跡（43）、天神平遺跡（44）、若宮前遺跡（45）、御蔵遺跡（46）、西大阪Ｂ遺跡（47）、前田遺跡（48）、南河原Ａ遺跡（49）、南河原Ｂ遺跡（50）、南河原Ｃ遺跡（51）、南河原Ｄ遺跡（52）、村西遺跡（53）がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡（40）、武田氏館跡（54）、湯村山城（55）、法泉寺山の烽火台（56）、小松山の烽火台（57）、武田城下町遺跡（58）がある。近世の遺構として甲府城下町遺跡（59）がある。武田信虎の拠点移転以後、本地域が甲斐国の中心地としての役割を担うことになったといえる。

第２節　基本土層（図５）

基本土層は１Ｄグリッドの西壁で確認した。４層は近代以降の堆積である。５層は遺物包含層である。５層上面は１号溝の検出面である。その他の遺構は６層上面が検出面である。以下に各層の説明を記す。

1　表土　黒褐色10YR3/2シルト。しまり中。粘性弱。3～10㎜の亜角礫10%を含む。
2　灰黄褐色10YR4/2シルト。しまり強。粘性強。1～5㎜の円礫30%、5～15㎝の円礫10%を含む。
3　黒褐色7.5YR3/1シルト。しまり中。粘性中。2～5㎜の亜角礫7%、褐鉄鉱3%を含む。
4　にぶい黄褐色10YR4/3シルト。しまり中。粘性弱。1～2㎜の亜角礫1%、1㎜位の金雲母片1%を含む。
5　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。1～2㎜の黄色土粒2%、1～3㎜の亜角礫1%を含む。
6　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。褐鉄鉱7%、1～2㎜の黄色土粒3%、2～3㎜の亜角礫1%を含む。
7　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。褐鉄鉱20%、2～3㎜の黄色土粒2%を含む。
8　黄褐色2.5Y5/6シルト。しまり強。粘性強。黒色粘土40%、1㎜位の亜角礫10%を含む。
9　明黄褐色2.5Y6/8シルト。しまり強。粘性強。2～5㎜の亜角礫5%を含む。
10　暗オリーブ色7.5Y4/3シルト。しまり強。粘性強。5～30㎜の亜円礫7%を含む。

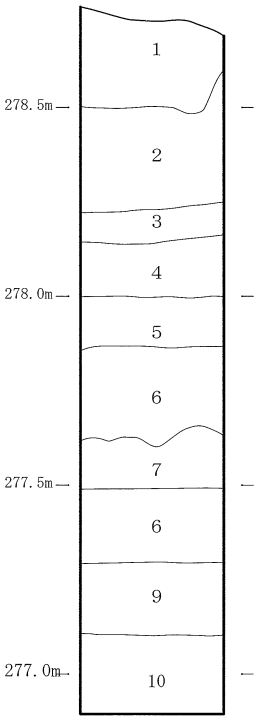


図５　基本土層

第３章　遺構と遺物

発掘調査では溝５条（１～４・６号）、井戸１基（１号）、ピット５基（１～５号）が検出された(図６）。５号溝は風倒木痕と判断し欠番とした。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

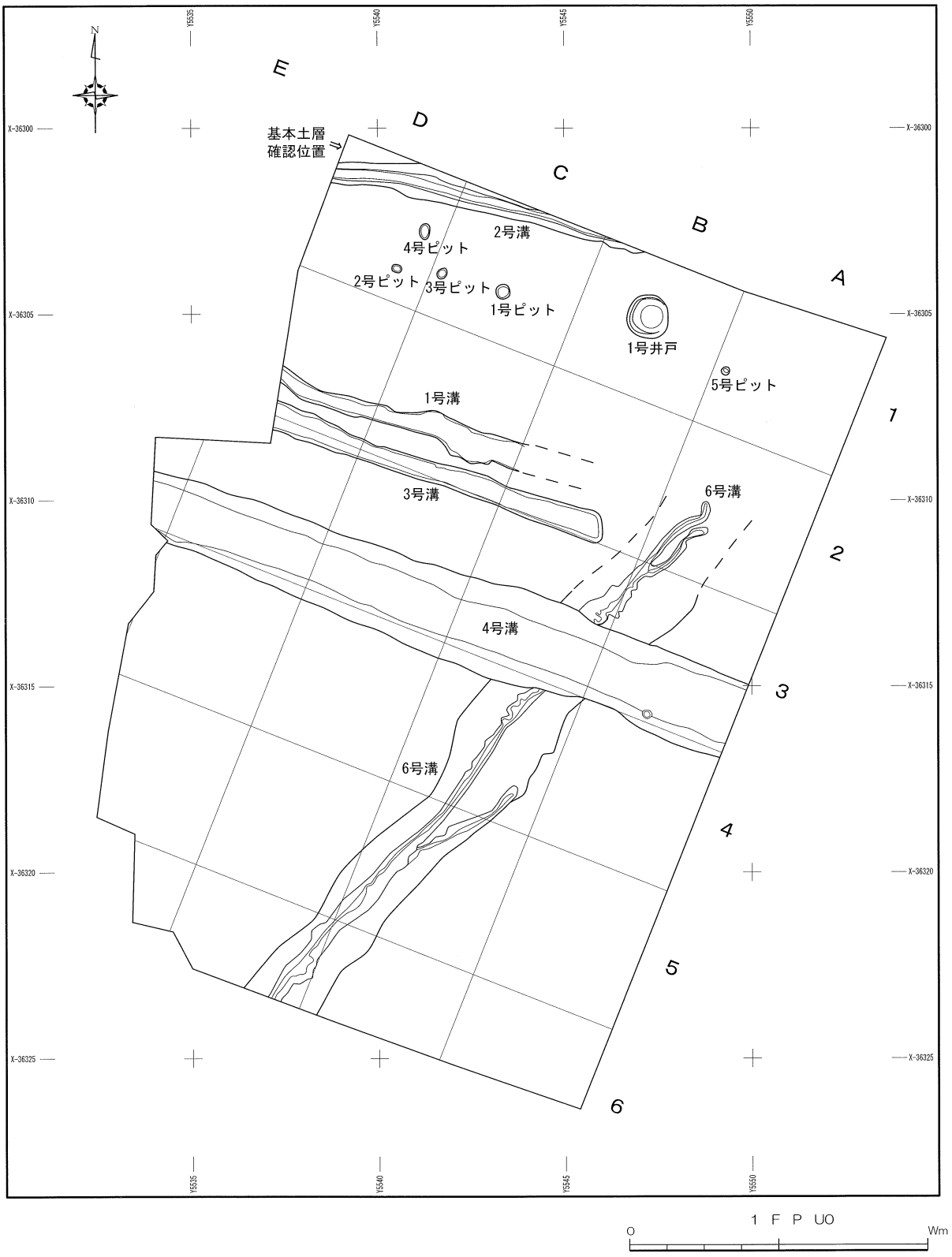


図６　調査区全体

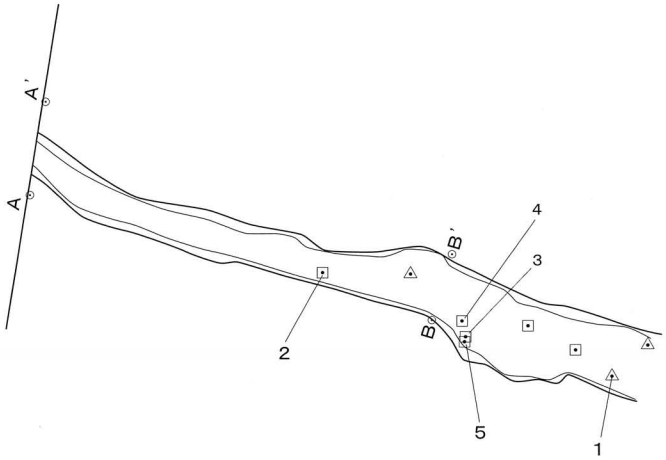
（１）溝

１号溝（図７、図版１・２）

１号溝は２Ｂ～２Ｄグリッドに位置する。検出範囲で長さ6.9ｍ、幅0.4～0.8ｍ、深さ0.1ｍである。西側は調査区外へ続き、東側は浅くなり途切れている。直線的な溝で方向はＮ-73°-Ｗである。

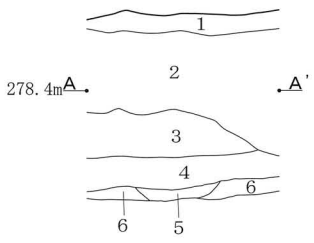
遺物１は平安時代の須恵器坏、２は平安時代の土師器坏である。３平安時代の土師器脚高高台坏もしくは皿である。４は底部が台状となる平安時代の土師器皿である。５は平安時代の厚口口縁の土師器甕である。

１号溝は基本土層で５層とした遺物包含層を掘り込み形成されている。１号溝検出面である基本土層５層上面ではガラス片やビー玉などが出土している。また１号溝出土遺物はいずれも小破片である。このような状況から１号溝出土遺物の年代と遺構の年代とは必ずしも一致するものではないと考える。

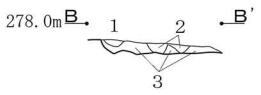


⊡土師器
△須恵器

1：80
0
4m

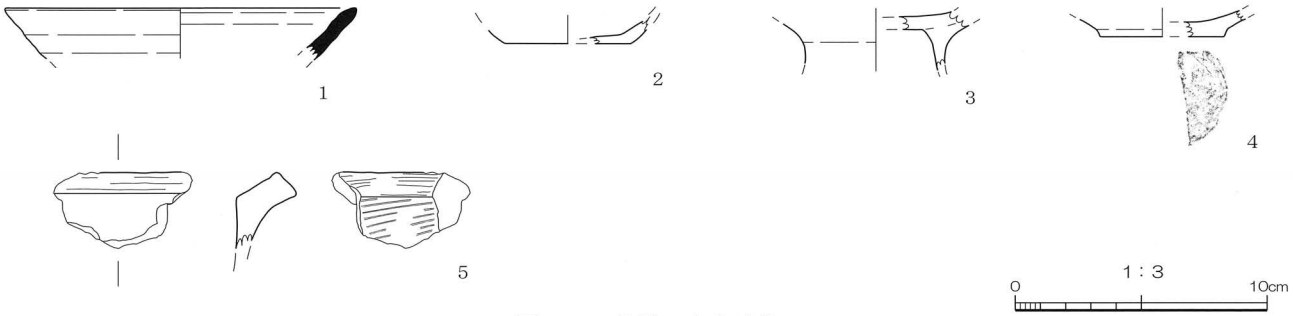


1　表土
灰黄色2.5Y6/2砕石。しまり強。粘性なし。
2　土管埋設土
3　黒褐色10YR3/2粘土。しまり強。粘性強。
赤褐色土10%を含む。
4　褐灰色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性弱。
2～10㎜の黄褐色土粒5%を含む。
5　１号溝覆土
褐灰色10YR4/1粘土。しまり強。粘性強。
2～3㎜の黄色土粒1%、2～3㎜の赤色土粒1%を含む。
6　灰黄褐色10YR5/2粘土。しまり強。粘性強。
赤褐色土粒10%、3～5㎜の黒褐色土粒5%を含む。



1　褐灰色10YR4/1粘土。しまり強。粘性強。
2～3㎜の黄色土粒1%を含む。
2　にぶい黄褐色10YR5/4粘土。しまり中。粘性強。
1㎜位の黄色土粒1%を含む。
3　褐灰色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性弱。
2～4㎜の黄褐色土粒2%を含む。

1：40
0
2m



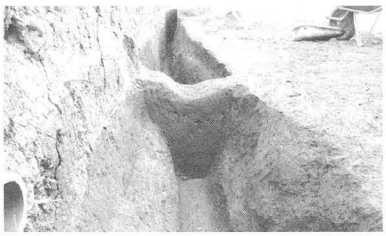
1：3
0
10cm

図７　１号溝・出土遺物

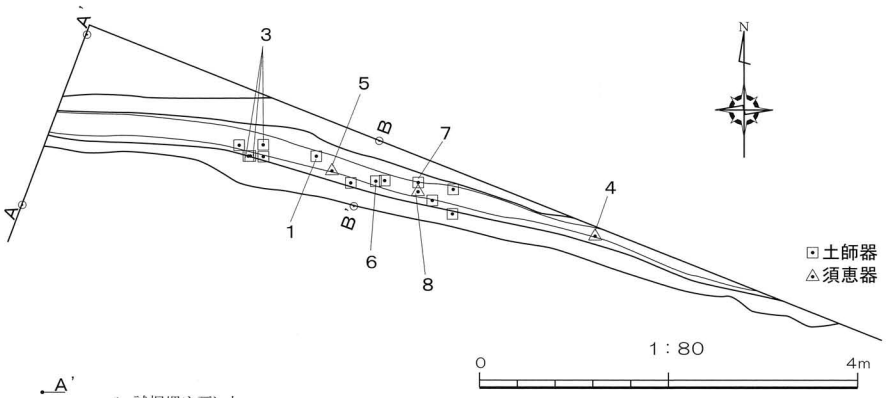
２号溝（図８、図版１・２）

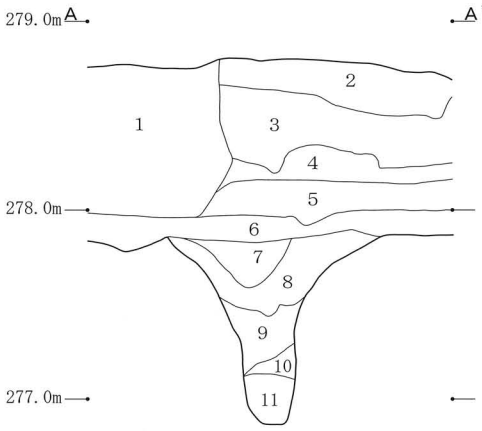
２号溝は１Ｂ～１Ｄグリッドに位置する。検出範囲で長さ8.5m、幅0.6～1.0m、深さ0.7～1.0mである。断面形は下半部が長方形で上半部がＶ字状に開いている。西側、東側共に調査区外へと続いている。ほぼ直線的な溝で方向はＮ-78°-Ｗである。

遺物１・２は古墳時代前期の土師器台付甕である。３は古墳時代中期の土師器甕である。４は古墳時代末の須恵器坏蓋である。５は古墳時代～奈良時代の須恵器短頸壺である。６・７は平安時代の土師器坏（甲斐型坏）である。８は平安時代の須恵器長頸壺（壺Ｇ）である。

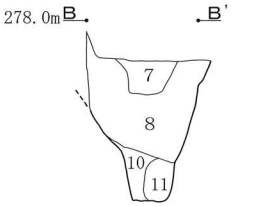


２号溝堆積状況（Ｂセクション位置）





1　試掘埋め戻し土。
2　表土
　黒褐色10YR3/2シルト。しまり中。粘性弱。
　3～10㎜の亜角礫10%を含む。
3　灰黄褐色10YR4/2シルト。しまり強。粘性強。
　1～5㎜の円礫30%、5～15㎝の円礫10%を含む。
4　黒褐色7.5YR3/1シルト。しまり中。粘性中。
　2～5㎜の亜角礫7%、褐鉄鉱3%を含む。
5　にぶい黄褐色10YR4/3シルト。しまり中。粘性弱。
　1～2㎜の亜角礫1%、1㎜位の金雲母片1%を含む。
6　遺物包含層
　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。
　1～2㎜の黄色土粒2%、1～3㎜の亜角礫1%を含む。
7～12　2号溝覆土
7　黒色10YR1.7/1粘土。細粒。しまり強。粘性強。
　褐鉄鉱3%、1～2㎜の黄色土粒1%、1～2㎜焼土粒1%を含む。
8　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。
　褐鉄鉱10%、1～3㎜の黄色土粒2%、2～3㎜炭化粒1%を含む。
9　黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。
　3～5㎝の黄色砂ブロック3%、褐鉄鉱3%、2～3㎜の亜角礫1%を含む。
10　黒色10YR2/1粘土。しまり中。粘性中。
　5～10㎝の黄褐色土ブロック(14～15層の崩落土)40%を含む。
11　黒色10YR1.7/1粘土。細粒。しまり強。粘性強。



1：40
0
2m

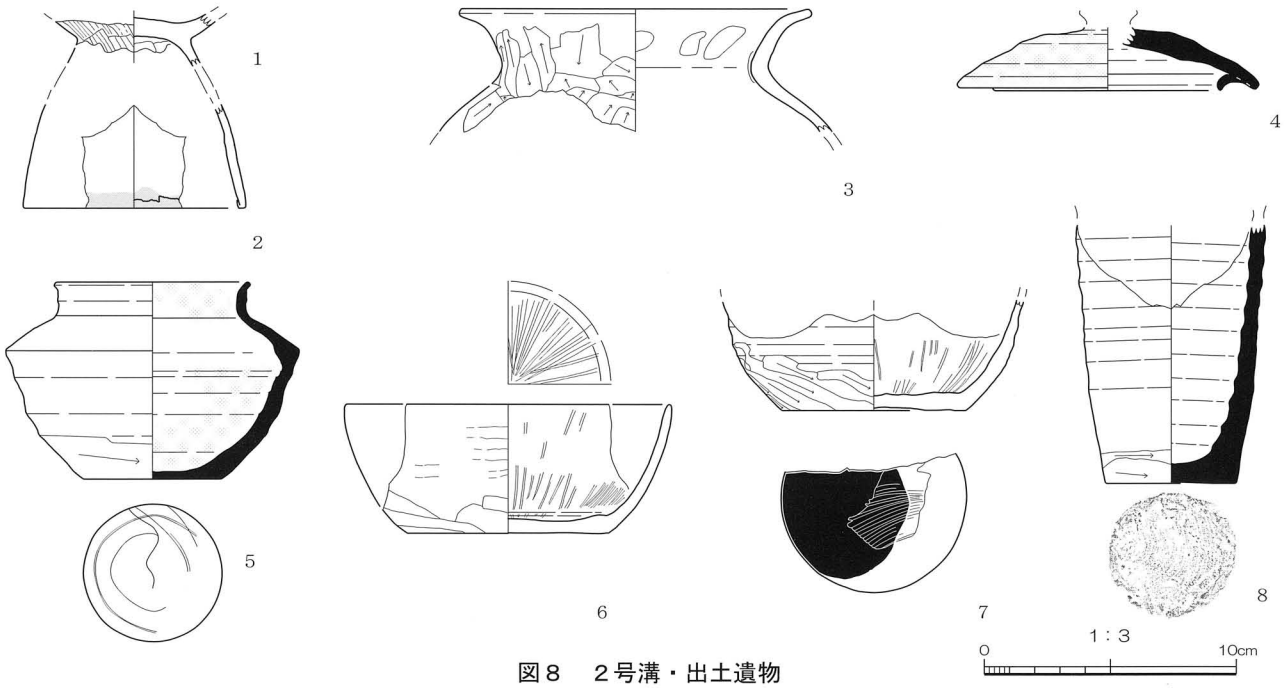
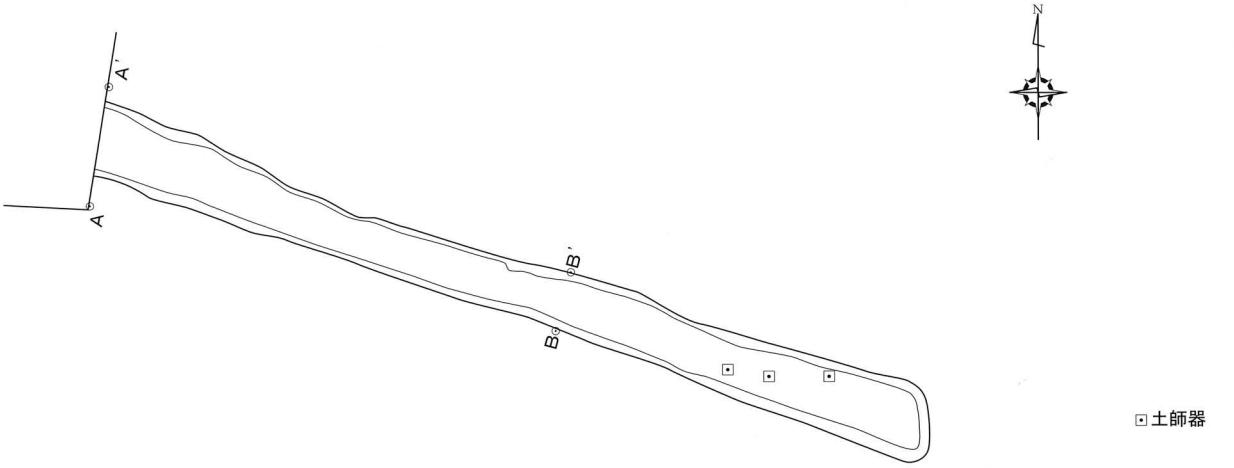


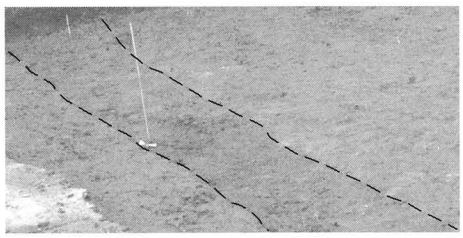
図８　２号溝・出土遺物

３号溝（図９、図版１・２）

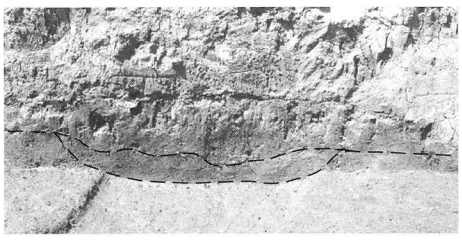
３号溝は２Ｂ～２Ｄ・３Ｄグリッドに位置する。検出範囲で長さ9.3m、幅0.4～0.8m、深さ0.1～0.2mである。底面は平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ直線に北西から南東方向に延びている。３号溝の延びる方向は１号溝、２号溝、４号溝と並行している。西側は調査区外へ続いている。直線的な溝で方向はN-72°-Wである。

遺物１は底部がやや台状の平安時代の土師器坏底部である。２は奈良・平安時代の土師器坏底部である。底部には回転糸切り痕が残る。３は奈良・平安時代の土師器坏口縁部である。４は奈良・平安時代の土師器坏または皿口縁部である。３号溝の遺物出土量はきわめて少なく、いずれも小破片である。

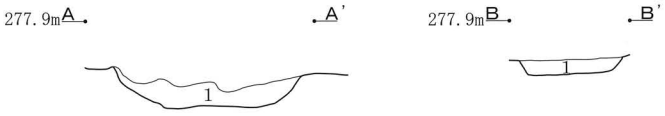




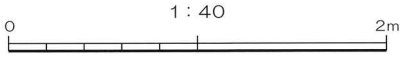
３号溝検出状況



３号溝堆積状況



1　褐灰色10YR4/1シルト。しまり強。粘性強。
1～2㎜の赤褐色土粒1%、2～3㎜の黄色土粒1%を含む。



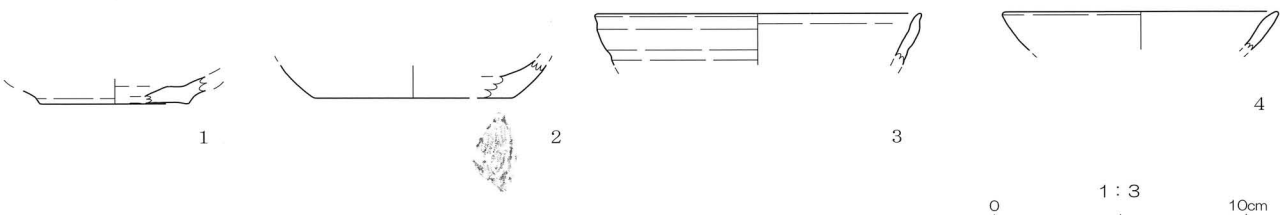
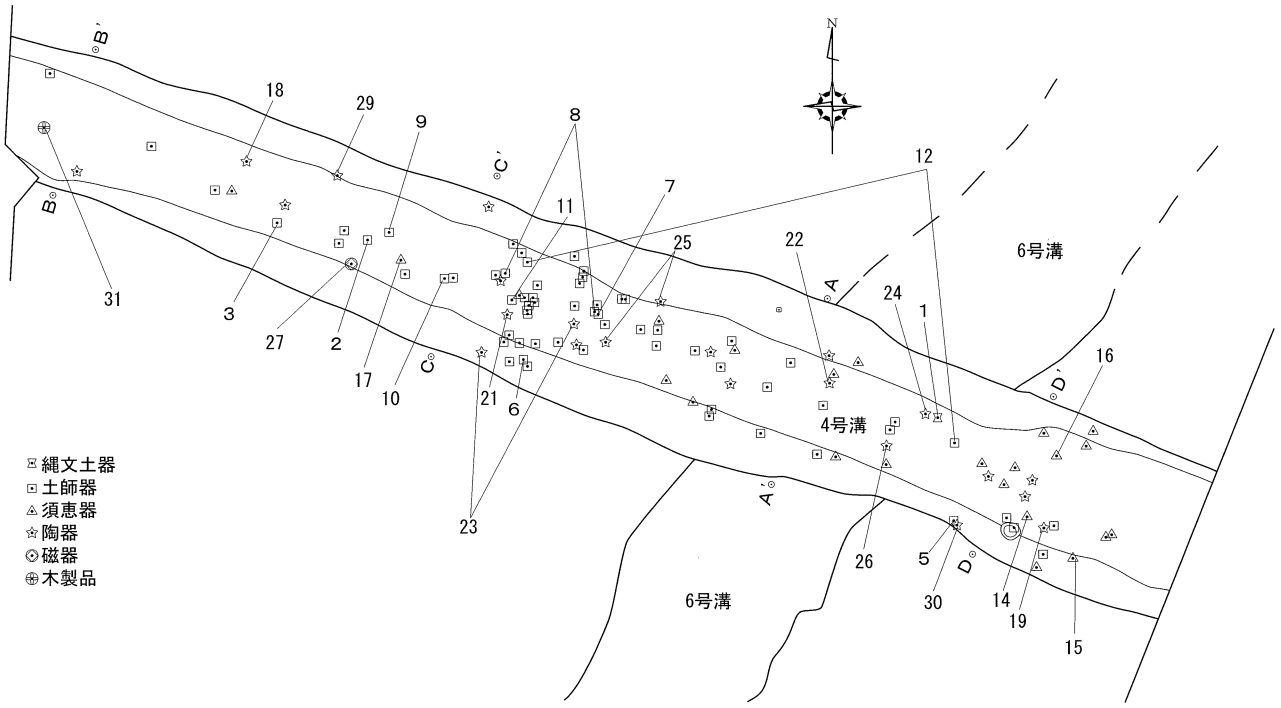
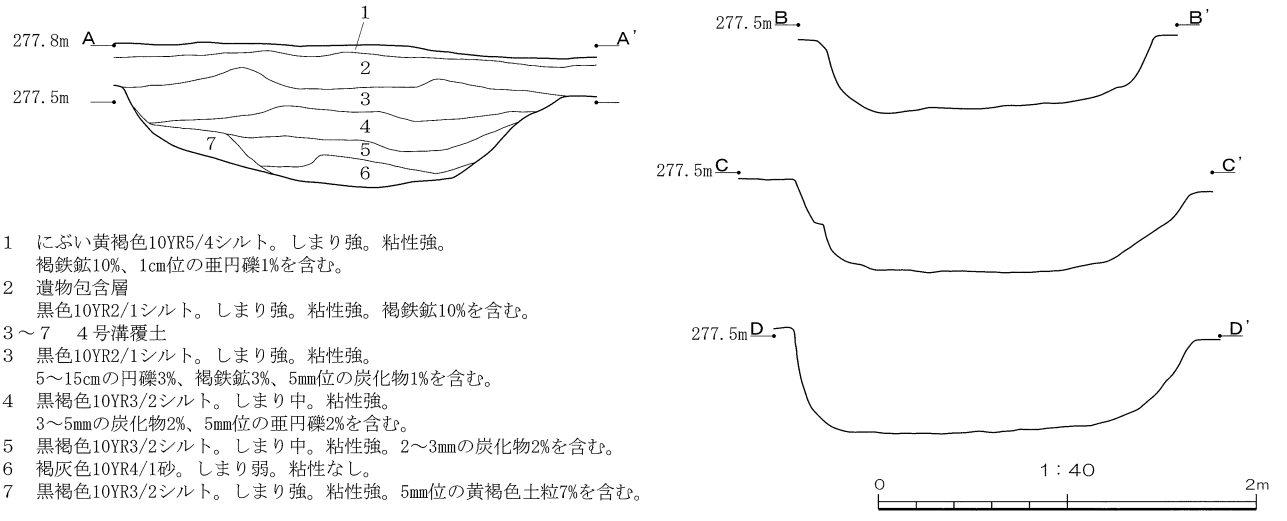


図９　３号溝・出土遺物

４号溝（図10、図版１～３）

４号溝は３Ａ～３Ｅ・４Ａ～４Ｄグリッドに位置する。検出範囲で長さ16.7m、幅1.8～2.6m、深さ0.4～0.6mである。西側、東側共に調査区外へと続いている。直線的な溝で方向はN-70°-Wである。３Ｂグリッド付近で６号溝と交差し、６号溝の底面より深く掘り込み形成されている。４号溝の底面には砂層が堆積しており、流路であったことが考えられる。主な出土遺物には古墳時代から平安時代までの時代幅が認められる。遺物１は縄文時代中期～後期の深鉢形土器体部片である。２は古墳時代後期の土師器高坏である。３～６は古墳時代の土師器甕である。７～10は平安時代の土師器坏、11は平安時代の土師器甕、12は土師器羽釜である。７には内外面に煤付着範囲が認められる。13～１４は奈良・平安時代の須恵器坏、15・16は須恵器壺、17は須恵器甕である。18～21は平安時代の灰釉陶器埦、22は皿、23は手付瓶、24・25は壺、26は甕である。27は青磁碗、28は青白磁合子、29は白磁碗、30は陶器壺である。31・32は板状の木製品である。その他、自然遺物として種、籾が出土している。





1　にぶい黄褐色10YR5/4シルト。しまり強。粘性強。
　褐鉄鉱10%、1cm位の亜円礫1%を含む。
2　遺物包含層
　黒色10YR2/1シルト。しまり強。粘性強。褐鉄鉱10%を含む。
3～7　４号溝覆土
3　黒色10YR2/1シルト。しまり強。粘性強。
　5～15cmの円礫3%、褐鉄鉱3%、5mm位の炭化物1%を含む。
4　黒褐色10YR3/2シルト。しまり中。粘性強。
　3～5mmの炭化物2%、5mm位の亜円礫2%を含む。
5　黒褐色10YR3/2シルト。しまり中。粘性強。2～3mmの炭化物2%を含む。
6　褐灰色10YR4/1砂。しまり弱。粘性なし。
7　黒褐色10YR3/2シルト。しまり強。粘性強。5mm位の黄褐色土粒7%を含む。

図10　４号溝

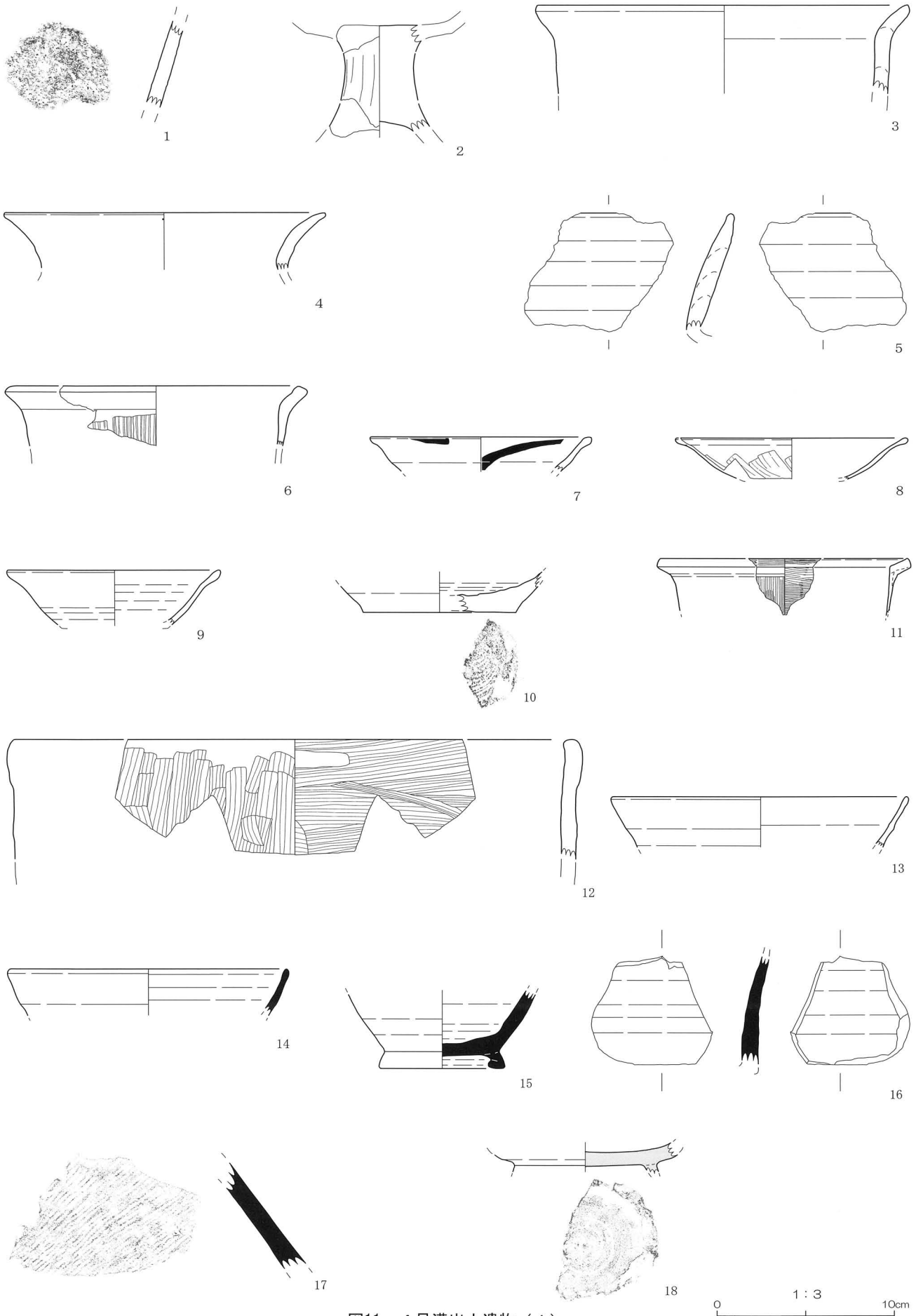


図11　４号溝出土遺物（１）

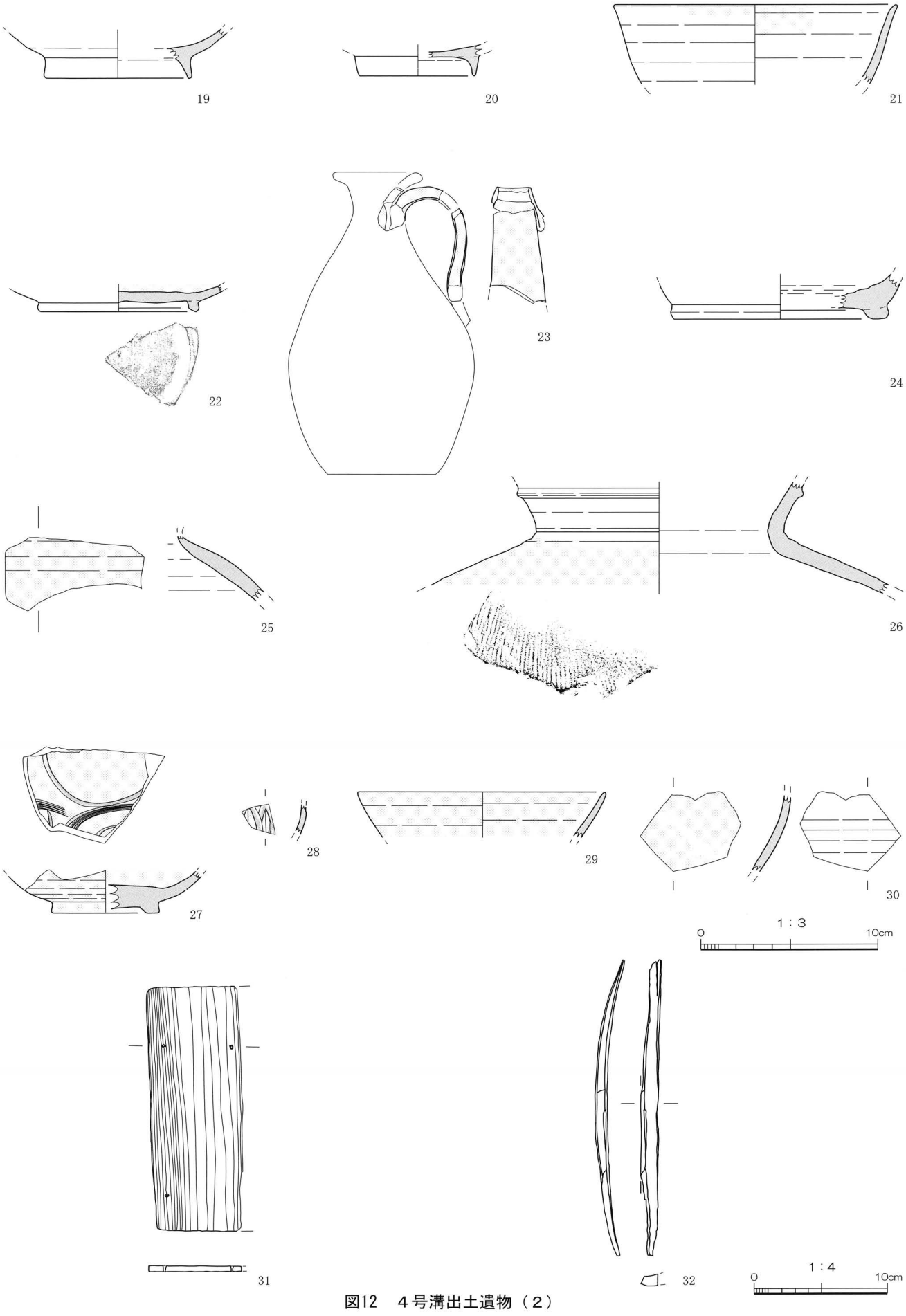
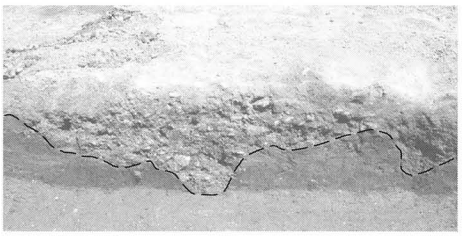


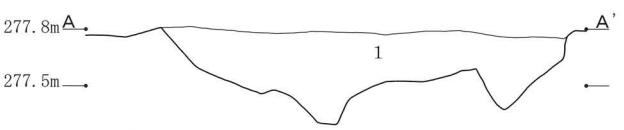
図12　４号溝出土遺物（２）

６号溝（図13、図版１）

６号溝は２Ａ・３Ａ～３Ｂ・４Ｂ・５Ｂ～５Ｃ・６Ｂ～６Ｃグリッドに位置する。検出範囲で長さ17.8ｍ、幅1.6～2.5ｍ、深さ0.2～0.5ｍである。南側は調査区外へ続いている。北側は浅くなり途切れている。溝の方向はＮ-41°-Ｅである。遺構下端の平面形態には分岐のようなものが見られる。このため、断面形も不整形なものとなっている。遺構覆土には５～10㎝大の亜円礫が多く含まれている。このような状況から６号溝は自然の流路である可能性が指摘できる。遺構の時期を特定できる遺物は出土していない。



６号溝堆積状況



1　黒色10YR2/1シルト。しまり中。粘性強。
5～10㎝位の亜円礫50%を含む。

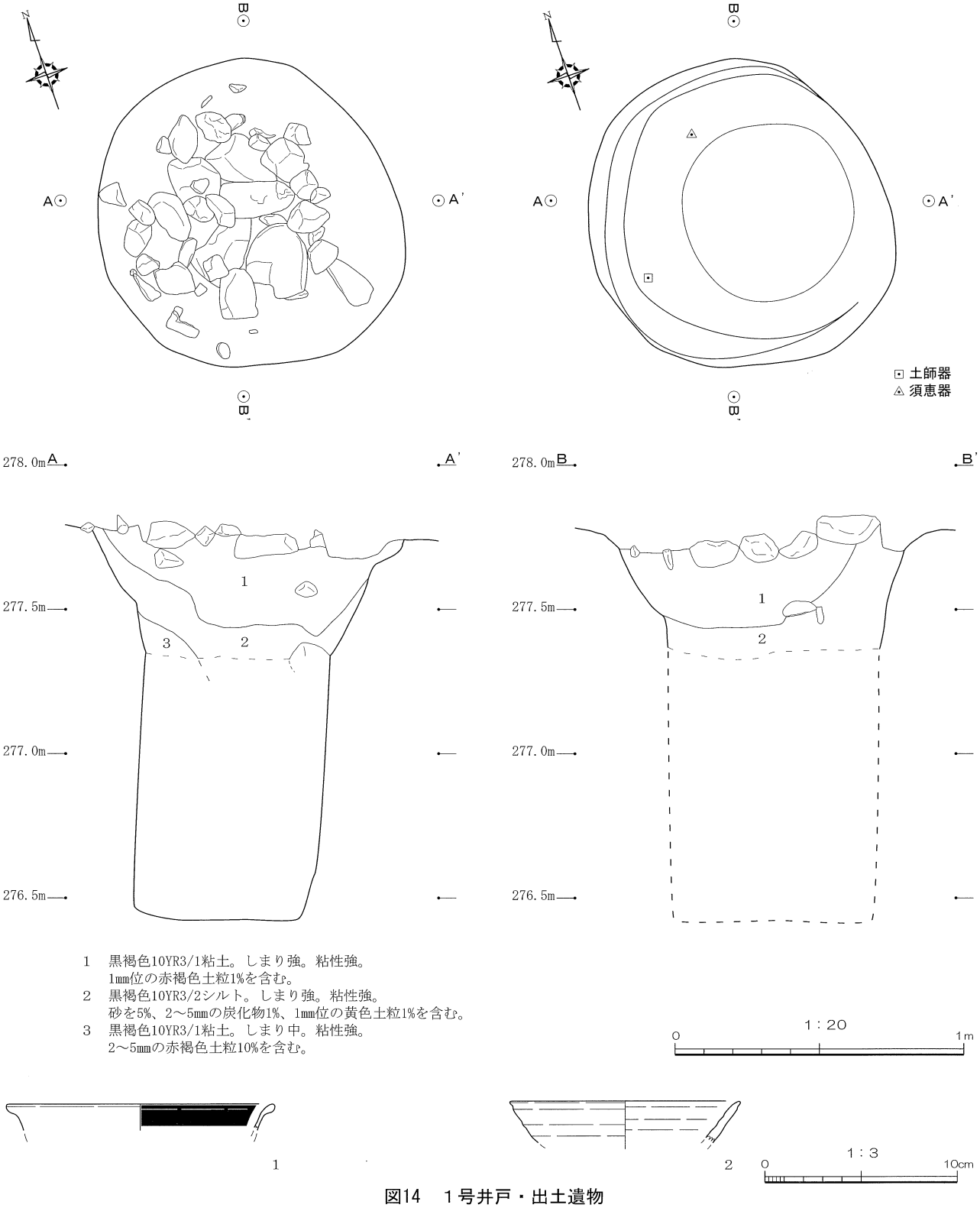
1：40
0
2m

図13　６号溝

（２）井戸

１号井戸（図14、図版１・３）

１号井戸は１Ｂグリッドに位置する。大きさは長軸1.1ｍ、短軸1.0ｍの円形で、深さ1.4ｍである。覆土上面には礫が集中していた。上端から50㎝以下では常に湧水が認められた。以上の状況から井戸と判断した。出土遺物は極めて少ない。底面からの出土遺物はなかった。遺物１は平安時代の土師器坏である。玉縁口縁で、内面は黒色処理されている。２は奈良・平安時代の土師器坏である。



1　黒褐色10YR3/1粘土。しまり強。粘性強。
　1㎜位の赤褐色土粒1%を含む。
2　黒褐色10YR3/2シルト。しまり強。粘性強。
　砂を5%、2～5㎜の炭化物1%、1㎜位の黄色土粒1%を含む。
3　黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。
　2～5㎜の赤褐色土粒10%を含む。

図14　１号井戸・出土遺物

（３）ピット（図15）

１号ピットは１Ｃグリッドに位置する。直径0.４ｍの円形である。深さ0.１ｍと浅く、残存状況は良くない。底面はほぼ平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層６層上面である。遺物は出土していない。

２号ピットは１Ｄグリッドに位置する。長軸0.３ｍ、短軸0.２ｍの楕円形である。深さ0.05ｍと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層６層上面である。遺物は出土していない。

３号ピットは１Ｃグリッドに位置する。長軸0.３ｍ、短軸0.25ｍの楕円形である。深さ0.05ｍと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層６層上面である。遺物は出土していない。

４号ピットは１Ｄグリッドに位置する。長軸0.４ｍ、短軸0.３ｍの楕円形である。深さ0.05ｍと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層６層上面である。遺物は出土していない。遺構検出面は基本土層６層上面である。

５号ピットは１Ａグリッドに位置する。直径0.２ｍの円形である。深さ0.15ｍと浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層６層上面である。遺物は出土していない。

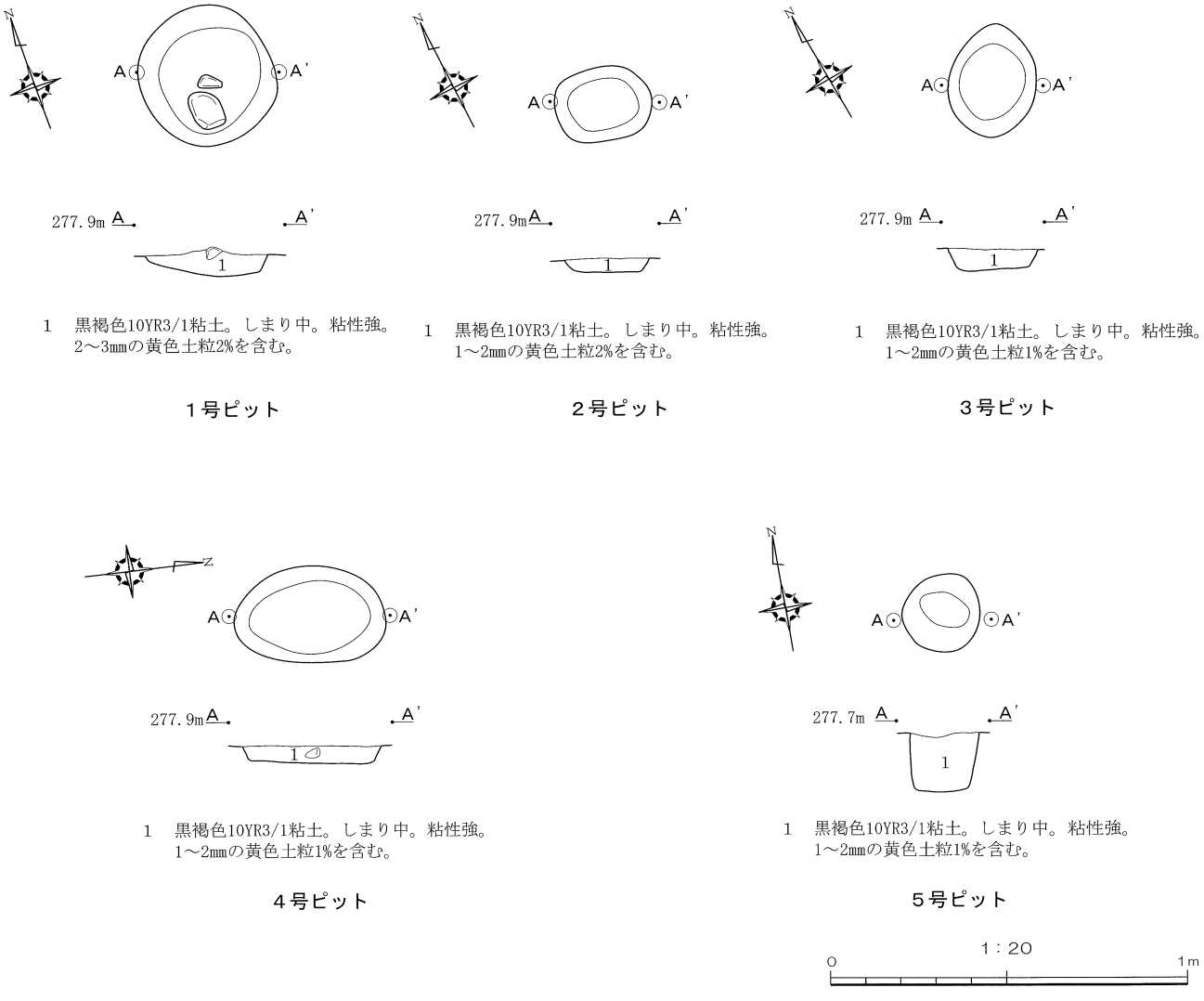


図15　１号～５号ピット

（３）遺構外出土遺物（図16～18、図版４）

主な遺構外出土遺物は遺構確認面の上にある遺物包含層から出土している。１は縄文時代中期～後期の深鉢形土器、２の黒曜石製石鏃は凹基有茎鏃で側縁先端部には段を有している。調査区外に設けた排土運搬用通路から出土している。３は石錐の可能性があるメノウ製の剥片である。４は古墳時代前期の土師器Ｓ字状口縁台付甕である。５～10は平安時代の土師器坏である。５の底部外面は外周がヘラ削りされ中央に回転糸切り痕が残存して

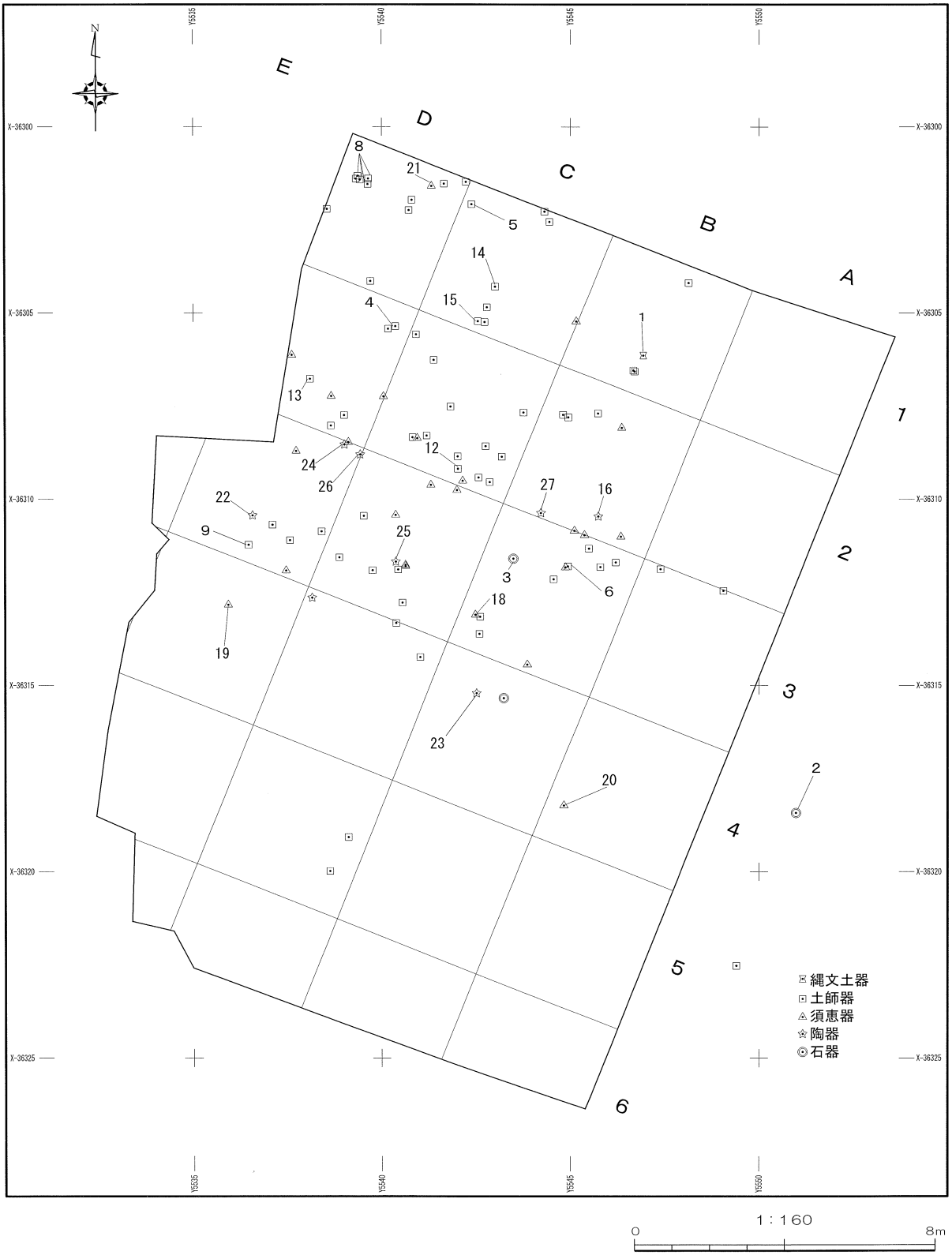


図16　遺構外遺物出土位置

いる。６の底部外面には不鮮明ながら微かに回転糸切り痕を確認することができる。10の底部外面には煤が付着している。11は平安時代の土師器高台付坏で体部と底部の内外面が黒色である。12は平安時代の土師器脚高高台坏または皿、13は平安時代の土師器小皿で底部外面に回転糸切り痕が残存している。14は土師器甕で外面に赤彩が施されている。15は平安時代の土師器羽釜の羽部である。16は奈良・平安時代の緑釉陶器で外面に貼り付けた粘土上に縦方向の沈線のようなものが認められる。輪花の沈線ではなく、把手の貼り付け部のような類のものと思われる。17は奈良・平安時代の須恵器坏で底部外面に回転糸切り痕が残存している。18は須恵器壺の口縁部で全体に赤灰色を帯びている。19～21は須恵器甕である。19・20は外面に平行叩き目、内面に同心円叩き目を有している。20は外面の一部に自然釉がかかっている。21は外面に平行叩き目、内面にハケ目を有し、外面全面に自然釉がかかっている。22～24は平安時代の灰釉陶器埦、25は灰釉陶器埦または皿、26は灰釉陶器皿である。26は底部外面回転糸切り後、無調整のまま高台の周囲をナデて貼り付けている。27は古瀬戸陶器縁釉小皿で鉄釉が施されている。底部外面は回転糸切り後無調整である。28は土器内耳鍋の底部である。内面には炭化物が0.5㎜の厚さで層状に付着している。29は近世磁器筒形碗で蛸唐草文の染付が施されている。内外面に破面に沿ってガラス質の焼継剤が帯状に認められる。30は瓦質土器火鉢または焜炉類である。外面に煤が付着している。

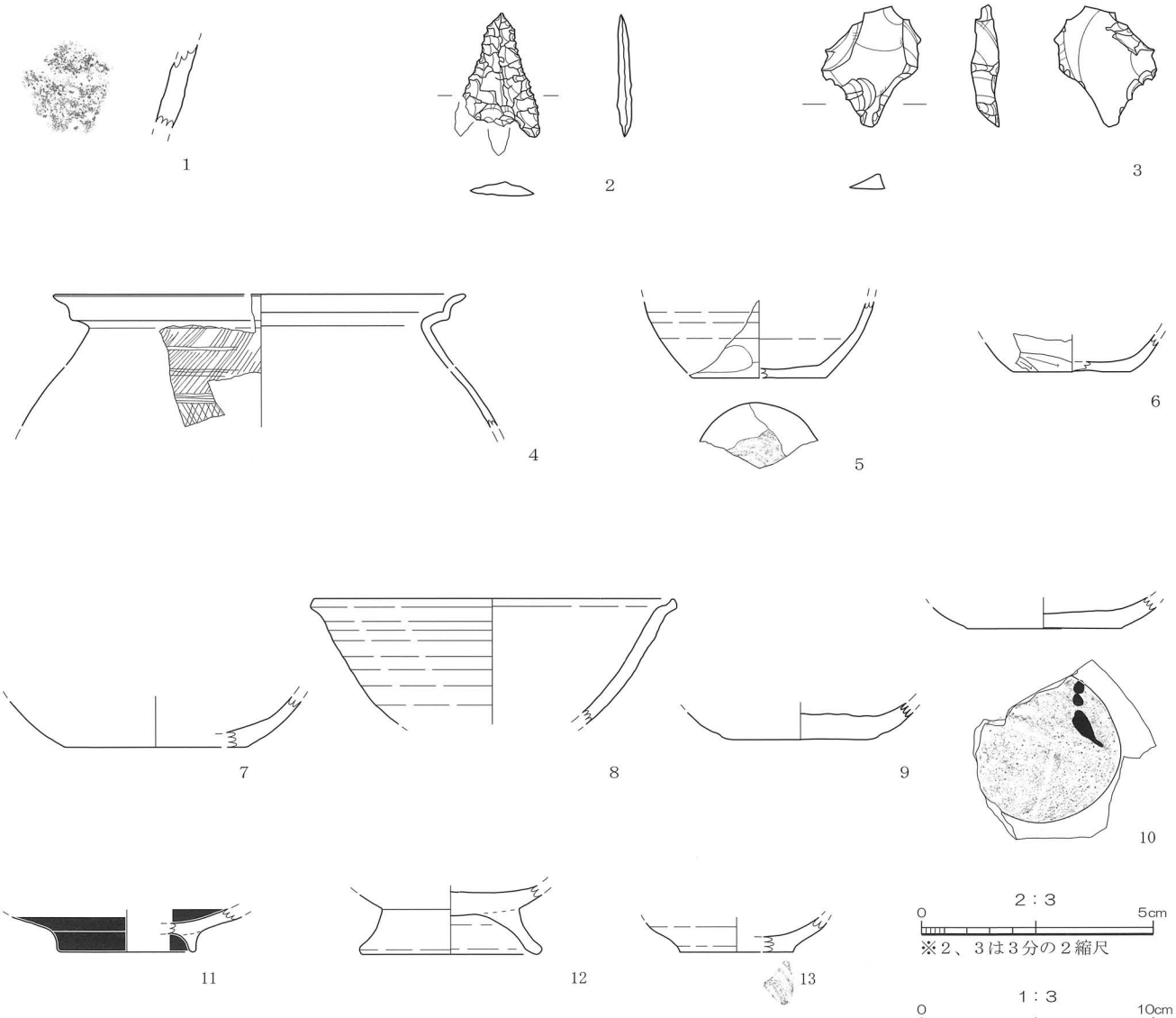


図17　遺構外出土遺物（１）

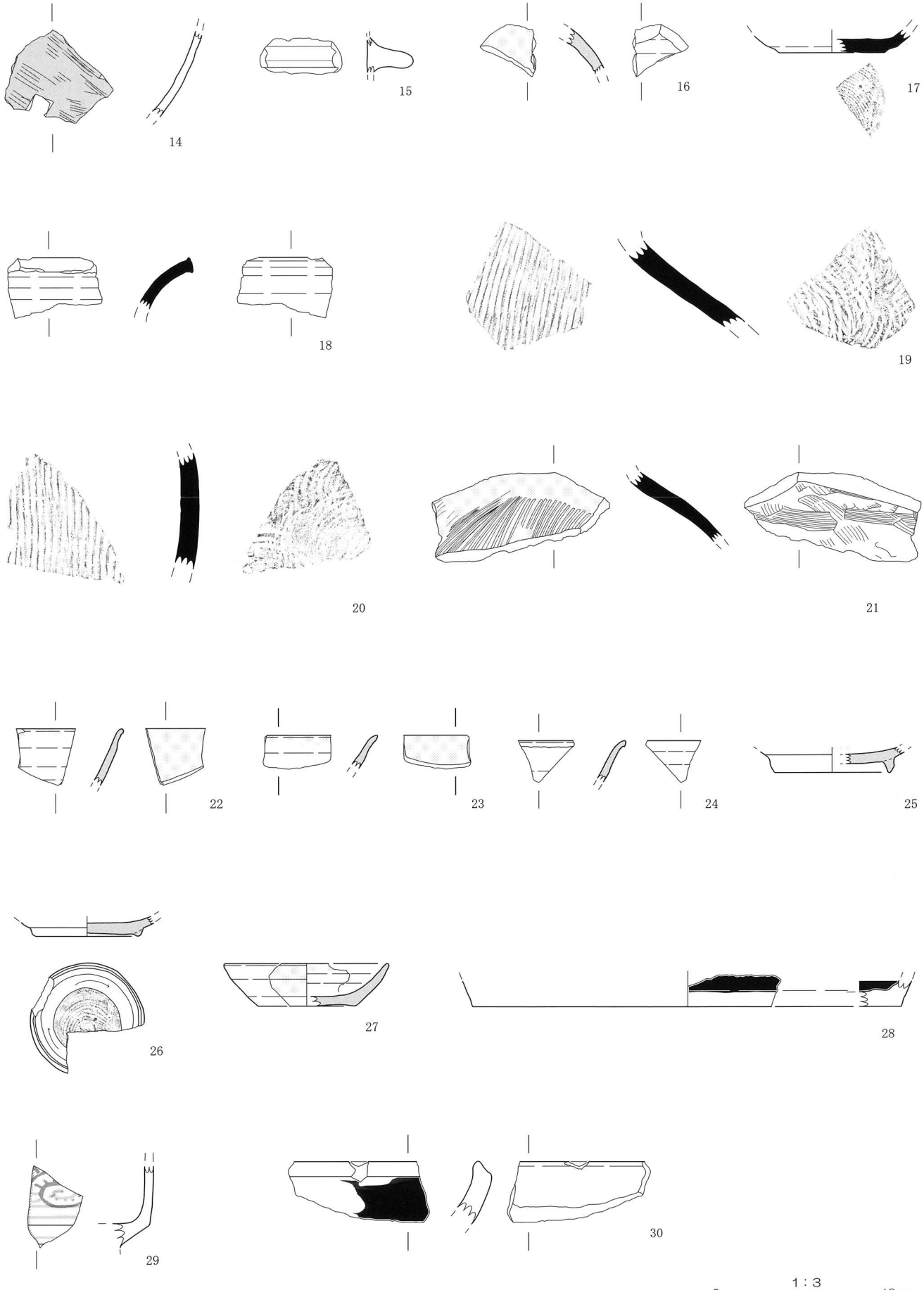


図18　遺構外出土遺物（２）

第４章　結　語

第１節　遺構と遺物の検討

発掘調査の結果、溝５条（１～４・６号）、井戸１基（１号）、ピット５基（１～５号）が検出された。１号溝は浅く残存状況が悪い。遺物は平安時代の土師器が出土しているが遺構の時期決定を確実にするものとはいえない。２号溝は断面形に特徴があり、下半部が細長く、上部は緩い傾斜で開くラッパ状の形態である。出土遺物は古墳時代から平安時代の遺物が層位的な分離をせずに出土している。遺構の埋没時期は平安時代と考えられる。３号溝は浅く残存状況が悪く、奈良・平安時代の土師器が出土しているが遺構の時期決定を確実にするものとはいえない。４号溝は幅1.8～2.6m、深さ0.4～0.6mと大きく、底面には砂層が堆積している。縄文時代から中世の遺物が出土しているが、遺構の埋没時期は中世初頭と考えられる。６号溝は下端の平面形態に分岐が見られ、断面形も不整形である。覆土には５～10cm大の亜円礫が非常に多く含まれている。遺物から時期を決定できないが、４号溝よりは古い遺構である。１号井戸は出土遺物が少なく、平安時代の土師器の小破片がわずかに出土しているのみである。１～５号ピットは浅く残存状況が悪い。遺物は出土していない。

ここで各遺構の配置を検討すると、先ず１～４号溝は東西方向にほぼ並行していることが分かる。６号溝は他の溝に対して方向性が異なり、扇状地の地形に準じ北から南方向へ下り、隣接する相川の流れに並行している。溝は不整形な平面形状や、礫の多い覆土状況も併せ考え、６号溝は自然の流路と思われる。次に東西方向に延びる１～４号の溝は、朝日小学校北側の通りに並行している。この通りは江戸時代前期は甲州道中であったことが分かっており、近世以前から交通路として機能していたことが考えられ、特徴的な断面形の２号溝や、水の流れがあったことが考えられる４号溝など扇状地の傾斜に対して直行する溝は、この小学校北側の通りに並行して掘られた区画溝の可能性がある。１号井戸に関しては、小学校北側の通りと４号溝の間に集落が存在していたことを思わせる遺構である。

第２節　塩部遺跡における調査区

平成６年度以降の調査により塩部遺跡は、縄文時代から中世まで約5000年以上存続していたことが分かった。縄文時代については遺構が未検出であるため詳細は不明であるが、弥生時代から古墳時代にかけては、遺跡範囲の中央部（２）地点（現甲府工業）一帯から南側（５）及び西側（３・４）にかけて集落が形成されていたものと考えられる。

平安時代は文治二年（1186）の醍醐寺文献目録に「甲斐国巨摩郡塩部庄」と記載があり、各調査地点から遺構・遺物が検出されている状況から、大規模な集落が形成されていたものと推定される。調査区で検出された４号溝や12世紀代の遺物は、塩部庄の状況を示す査証であり、特に中国製磁器の出土は、富裕層や町屋が存在していたことを窺わせる。

中世は塩部郷であり、試掘調査では14世紀前半代の常滑焼の出土した。16世紀代には調査区東側の相川左岸の現朝日２・３丁目周辺に三日市場が設けられ、塩部郷の中心はこの三日市場近辺に移動したことも考えられる。

近年京都大学で発見された17世紀代の甲府城下町の絵図に、一里塚と「古三日市場」の記述がみられ、調査区北側の東西の通りが江戸時代初期の甲州道中であったことが判明した。この調査区周辺は古代から信州方面へ向かう交通の要所であったことが考えられ、今後の発掘調査により実態が解明されるであろう。

図No.	遺構名	種別	器種	口径	その他計測値	底径	器高	部位	色調	焼成	胎土	備考
1-1	試掘 T-1	土師器	S字状口縁台付甕	—		—	—	口縁部	橙色7.5YR6/6	良	石英、長石、金雲母、赤色粒子を含む。	4C中葉～5C前葉
1-2	試掘 T-5	陶器	甕	—		—	—	口縁部	内面赤褐色10YR4/3 内面(自然釉)灰オリーブ色7.5Y6/2 外面黄灰色2.5Y6/1	良		常滑。13C～14Cか
1-3	試掘 T-6	土師器	坏(黒色土器)	—		(6.0)	〈0.9〉	体部～底部	内面黒色10Y2/1 外面橙色5YR6/6	良	やや緻密。赤色粒子を含む。	底部外面回転糸切り。9C後半～10C後半。
7-1	1号溝	須恵器	坏	(14.0)		—	〈2.0〉	口縁部～体部	灰色5Y6/1	良	—	8C後半
7-2	1号溝	土師器	坏	—		(5.0)	〈1.1〉	底部	橙色5YR6/6	良	やや緻密。赤色粒子、石英を含む。	8C後半～10C後半
7-3	1号溝	土師器	脚高高台坏または脚高高台皿	—		—	〈2.3〉	底部～脚部	橙色5YR7/6	良	赤色粒子を含む	10C後半～12C
7-4	1号溝	土師器	皿	—		(5.0)	〈1.0〉	底部	橙色5YR6/8	良	赤色粒子、長石を含む	底面糸切り。11C後半～12C。底部台状。
7-5	1号溝	土師器	甕	—		—	〈2.5〉	口縁部	橙色5YR6/6	良	石英、長石、金色雲母を含む	内面横方向のハケ目、外面は不鮮明で不明。厚口口縁。10C後半。
8-1	2号溝	土師器	台付甕	—		—	〈1.8〉	底部	にぶい黄橙色10YR7/3	良	石英、長石、金雲母を含む。	外面ハケ目。内面ナデ。3C後葉～5C前葉。8-2と同一個体。
8-2	2号溝	土師器	台付甕	—		(8.8)	〈4.1〉	脚部	にぶい黄橙色10YR7/3	良	石英、長石、金雲母を含む。	脚部末端部内側へ折り返し。3C後葉5C前葉。8-1と同一個体。
8-3	2号溝	土師器	甕	(14.0)		—	〈4.9〉	口縁部～頸部	明赤褐色5YR5/6	良	赤色粒子、石英、長石、金雲母を含む。	頸部外面粗雑なナデ。頸部内面に指頭圧痕。4C中葉～5C前葉。
8-4	2号溝	須恵器	坏蓋	(12.0)	摘み径—		〈1.3〉	口縁部～体部	内面明褐灰色7.5YR7/1 外面(自然釉)オリーブ灰色10Y5/2	良	—	7C第2・第3四半世紀
8-5	2号溝	須恵器	短頸壺	(7.6)	最大径(11.6)	5.5	6.8	口縁部～底部	内外面灰白色N8/ 自然釉範囲オリーブ灰色10Y4/2	良	—	体部外面下部から底部と底面は回転ヘラ削り。古墳時代～奈良時代。
8-6	2号溝	土師器	坏	(13.0)		8.0	5.1	口縁部～底部	橙色5YR6/6	良	やや緻密。赤色粒子を含む。	体部外面上半ヘラ磨き、下半手持ちヘラ削り。底面全面ヘラ削り。体部内面とみこみ部に放射状暗文あり。8C後半。
8-7	2号溝	土師器	坏	—		7.4	〈4.4〉	口縁部～底部	橙色5YR6/6	良	やや緻密。赤色粒子を含む。	体部外面上半ロクロナデ、下半手持ちヘラ削り。底面糸切り後全面ヘラ削り。体部内面に放射状暗文あり。9C前半。
8-8	2号溝	須恵器	長頸壺	—		5.2	〈10.2〉	体部～底部	内面灰褐色7.5YR5/2 外面体部灰色5Y5/1 外面底部、底面にぶい黄橙色10YR7/3	良	—	体部外面下部から底部は回転ナデ。底面は回転糸切りの後は無調整。9C前半。
9-1	3号溝	土師器	坏	—		(6.0)	〈1.1〉	底部	橙色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	11C前半～11C後半
9-2	3号溝	土師器	坏	—		(8.0)	〈1.5〉	底部	橙色5YR7/6	良	赤色粒子を含む。	底面糸切り。奈良・平安時代。
9-3	3号溝	土師器	坏	(13.0)		—	〈1.6〉	口縁部～体部	橙色7.5YR7/6	良	赤色粒子を含む。	奈良・平安時代
9-4	3号溝	土師器	坏または皿	(11.0)		—	〈1.5〉	口縁部～体部	橙色7.5YR7/6	良	赤色粒子を含む。	奈良・平安時代
11-1	4号溝	縄文土器	深鉢	—		—	—	体部	にぶい黄橙色10YR7/4	良	石英、長石を含む。	縄文時代中期～後期
11-2	4号溝	土師器	高坏	—		—	〈6.3〉	脚部	にぶい橙色7.5YR7/4	良	—	外面ヘラ削り。6C後半。

数値の単位はcm、( )内数値は復元値、〈 〉内数値は残存値。

数値の単位はcm、( )内数値は復元値、< >内数値は残存値。

図No.	遺構名	種別	器種	口径	その他計測値	底径	器高	部位	色調	焼成	胎土	備考
11-3	4号溝	土師器	甕	(21.4)		—	<5.0>	口縁部～体部	内面にぶい黄褐色10YR4/3 外面黒褐色10YR3/2	良	石英、長石を含む。	古墳時代
11-4	4号溝	土師器	甕	(18.0)		—	<3.2>	口縁部	にぶい橙色7.5YR7/4	良	長石、石英を含む。	内外面ともにナデ。古墳時代。
11-5	4号溝	土師器	甕	—		—	—	口縁部	橙色5YR6/6	良	長石、石英を含む。	内外面ともにナデ。古墳時代。
11-6	4号溝	土師器	甕	(17.0)		—	<3.4>	口縁部～体部	内面褐灰色5YR4/1 外面明赤褐色2.5Y5/6	良	金雲母、石英、長石を含む。	体部外面縦ハケ目。古墳時代。
11-7	4号溝	土師器	坏	(12.4)		—	<2.0>	口縁部～体部	橙色5YR6/6	良	やや緻密。赤色粒子を含む。	体部上半内外面ともにロクロナデ。9C後半～10C後半。
11-8	4号溝	土師器	坏	(13.0)		—	<2.3>	口縁部～底部	橙色5YR6/6	良	緻密。赤色粒子を含む。	体部下半ヘラ削り。口縁端部外反、肥厚。10C。
11-9	4号溝	土師器	坏	(12.0)		—	<3.1>	口縁部～体部	にぶい橙色7.5YR6/4	良	緻密。赤色粒子を含む。	内外面ともにロクロナデ。口縁端部外反、肥厚。10C後半。
11-10	4号溝	土師器	坏	—		(6.8)	<2.3>	底部	内面灰褐色5YR4/2 外面黒色N1.5/	良	金雲母、石英を含む。	見込、底部外面ロクロナデ。底面回転糸切り後無調整。11C末～12C。
11-11	4号溝	土師器	甕	(28.0)		—	<6.4>	口縁部～体部	褐色7.5YR4/6	良	石英、長石、金雲母を含む。	体部外面縦ハケ目。口縁部、体部内面横ハケ目。口縁部肥厚。10C前半～10C後半。
11-12	4号溝	土師器	羽釜	(32.0)		—	<6.7>	口縁部	内面暗赤褐色5YR3/2 外面橙色5YR6/6	良	長石、石英を含む。	外面縦ハケ目、内面横ハケ目、一部横ナデ。
11-13	4号溝	須恵器	坏	(16.6)		—	<2.8>	口縁部～体部	灰色5Y6/1	良	—	内外面ともにロクロナデ。8C後半～9C前半。
11-14	4号溝	須恵器	坏	(15.6)		—	<2.6>	口縁部～体部	灰色2.5Y7/1	良	—	内外面ともにロクロナデ。7C末～9C前半。
11-15	4号溝	須恵器	長頸壷	—		(7.0)	<4.4>	体部～底部	内面明青灰色5PB7/1 外面青灰色5PB6/1	良	—	高台ハリツケ後、末端部を内側に折り返し。7C末～9C後半。
11-16	4号溝	須恵器	壺	—		—	—	体部	内面灰白色N6/ 外面褐灰色7.5YR5/1	良	—	内外面ともにナデ。
11-17	4号溝	須恵器	甕	—		—	—	体部	暗青灰色5PB4/1	良	—	外面叩き目。
11-18	4号溝	灰釉陶器	埦	—		—	<1.7>	底部	灰白色N7/	良	—	高台内回転ヘラ削り。高台ハリツケ。9C後半～11C後半。
12-19	4号溝	灰釉陶器	埦	—		(8.4)	<2.8>	体部～底部	灰白色N7/	良	—	高台断面二等辺三角形。10C後半～11C前半。
12-20	4号溝	灰釉陶器	埦	—		(6.4)	<1.8>	底部	灰白色N7/	良	—	高台ハリツケ、断面二等辺三角形。10C後半～11C前半。
12-21	4号溝	灰釉陶器	埦	(16.0)		—	<4.6>	口縁部～体部	内外面灰白色N7/ 施釉範囲灰白色2.5Y7/1	良	—	10C後半～11C前半
12-22	4号溝	灰釉陶器	皿	—		(9.0)	<1.6>	底部	内面(灰釉)オリーブ灰色10Y5/2 外面灰白色N7/	良	—	高台内回転ヘラ削り。内面、見込みは全面施釉。高台ハリツケ、断面方形の角高台。高台内にヘラ記号「×」あり。9C前半～9C後半。
12-23	4号溝	灰釉陶器	手付瓶	—		—	—	頸部、把手	全面(灰釉)灰オリーブ色7.5Y6/2	良	—	全面施釉。9C後半～11C後半。
12-24	4号溝	灰釉陶器	長頸壷	—		(12.0)	<2.1>	底部	灰白色N7/	良	—	内外面に一部点状に施釉範囲あり。高台ハリツケ。9C後半～11C後半。
12-25	4号溝	灰釉陶器	壷	—		—	—	体部	内面灰白色N8/ 外面(灰釉)灰オリーブ色7.5Y5/2	良	—	9C後半～11C後半
12-26	4号溝	灰釉陶器	甕	—		—	<6.4>	頸部～肩部	内外面灰白色N8/ 施釉範囲灰白色7.5Y7/1	良	—	肩部外面叩き目。肩部外面施釉。9C後半～11C後半。

図No.	遺構名	種別	器種	口径	その他計測値	底径	器高	部位	色調	焼成	胎土	備考
12-27	4号溝	青磁	碗	—		(6.0)	〈2.4〉	体部～底部	内外面オリーブ灰色10Y5/2 露胎範囲灰色N6/	良	—	高台削り出し。体部内面にヘラと櫛による劃花文が施される。同安窯系。12C以降。
12-28	4号溝	青白磁	合子	—		—	—	体部	内面灰白色8N/ 外面明青灰色5BG7/1	良	—	体部外面蓮弁文。中国製。
12-29	4号溝	白磁	碗	(14.0)		—	〈2.7〉	口縁部～体部	灰色 10Y7/1	良	—	中国製。
12-30	4号溝	陶器	壺	—		—	—	体部	内面(無釉)灰色6N/と 灰白色2.5Y7/1の縞模様 (胎土黄灰色2.5Y7/2) 外面(灰釉)灰オリーブ色7.5Y5/2 外面(鉄釉)暗褐色7.5YR3/3	良	—	内面無釉。
12-31	4号溝	木製品	板	長さ 19.8	幅 〈7.0〉	厚さ 0.48			—		—	穴三ヶ所あり。直径2㎜。
12-32	4号溝	木製品	板か	長さ 〈22.7〉	幅 〈1.4〉	厚さ 〈1.0〉			—		—	
14-1	1号土坑	土師器	坏	(11.0)		—	〈1.4〉	口縁部	内面黒色7.5YR2/1 外面にぶい橙色7.5YR6/4	良	緻密。赤色粒子を含む。	内面黒色処理。口縁端部外反、肥厚。9C後半～10C前半。
14-2	1号土坑	土師器	坏	(12.0)		—	〈2.1〉	口縁部～体部	橙色7.5YR7/6	良	—	奈良・平安時代
17-1	遺構外	縄文土器	深鉢	—		—	—	体部	内面にぶい黄橙色10YR6/3 外面橙色7.5Y6/6	良	石英、長石を含む。	縄文時代中期～後期
17-2	遺構外	石器	石鏃	軸長 〈2.2〉	軸幅 〈1.7〉	最大厚 0.3	重量 〈0.89g〉		—		石材黒曜石	凹基有茎鏃。片方の脚部と中茎が折損。側縁先端部に断を有する。縄文時代晩期か
17-3	遺構外	石器	剝片	最大長 2.7	最大幅 2.0	最大厚 0.6	重量 2.08g		にぶい褐色7.5YR5/4		石材メノウ	石錐の可能性があるか
17-4	遺構外	土師器	S字状口縁台付甕	(18.0)		—	〈5.4〉	口縁部～体部	にぶい黄橙色10YR7/3	良	長石、金雲母、石英を含む。	外面ハケ目。4C中葉。
17-5	遺構外	土師器	坏	—		(5.8)	〈3.4〉	体部～底部	橙色5YR6/6	良	やや緻密。 赤色粒子を含む。	体部外面上部、体部内面ナデ。体部外面下部、底部外面外周ヘラ削り。底部外面中央に回転糸切り痕残存。9C前半。
17-6	遺構外	土師器	坏	—		(5.0)	〈1.6〉	体部～底部	にぶい橙色7.5YR7/4	良	やや緻密。 赤色粒子を含む。	体部外面下部ヘラ削り。底部外面回転糸切り。底部外面のヘラ削りは不明瞭。9C前半～9C後半。
17-7	遺構外	土師器	坏	—		(8.0)	〈2.3〉	体部～底部	内面明赤褐色5YR5/8 外面橙色7.5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	9C後半～10C後半
17-8	遺構外	土師器	坏	(16.0)		—	〈5.4〉	口縁部～体部	明赤褐色5YR5/8	良	やや緻密。 赤色粒子を含む。	外面ナデ。10C前半。
17-9	遺構外	土師器	坏	—		(6.2)	〈1.7〉	体部～底部	橙色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	底部内面ナデ。底部外面回転糸切り。11C前半～12C。
17-10	遺構外	土師器	坏	—		6.6	〈1.3〉	体部～底部	にぶい黄橙色10YR7/4	良	石英、長石、赤色粒子を含む。	底部外面回転糸切り。底部外面煤付着。11C前半～12C。
17-11	遺構外	土師器	高台付坏	—		(6.0)	〈1.8〉	体部～底部	黒色10YR2/1	良	赤色粒子を含む。	体部、底部内外面黒色。9C後半。

数値の単位はcm、( )内数値は復元値、〈 〉内数値は残存値。

数値の単位はcm、( )内数値は復元値、< >内数値は残存値。

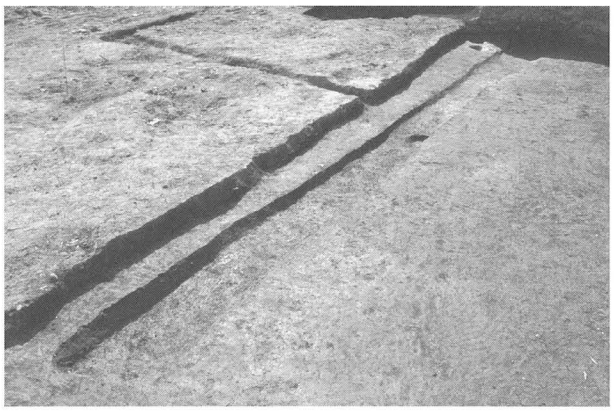
図No.	遺構名	種別	器種	口径	その他計測値	底径	器高	部位	色調	焼成	胎土	備考
17-12	遺構外	土師器	脚高高台坏または脚高高台皿	—		(8.0)	<3.0>	底部	内面にぶい黄橙色10YR7/2 外面橙色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	底部内面、高台内面ナデ。10C後半～11C後半。
17-13	遺構外	土師器	小皿	—		(5.0)	<1.5>	体部～底部	橙色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	体部外面ナデ。底部外面回転糸切り。11C前半～12C。
17-14	遺構外	土師器	甕	—		—	—	体部	内面橙色5YR6/6 外面赤褐色2.5YR4/8	良	長石、石英を含む。	体部外面ハケ調整後赤彩。
17-15	遺構外	土師器	羽釜	—		—	—	体部(羽)	明赤褐色2.5YR5/6	良	長石、石英、金雲母を含む。	10C前半～11C後半
17-16	遺構外	緑釉陶器	瓶	—		—	—	体部	内面(露胎)明褐灰色7.5YR7/2 外面(緑釉)オリーブ灰色10Y5/2	良	—	内面は露胎。外面に貼り付けた粘土上に縦方向の沈線あり。奈良・平安時代。
17-17	遺構外	須恵器	坏	—		(6.0)	<0.9>	底部	灰色N6/	良	—	底部外面回転糸切り後無調整。体部外面下部ナデ。8C後半～9C前半。
17-18	遺構外	須恵器	壺	—		—	—	口縁部	赤灰色5R6/1	良	—	内外面ともにナデ。
17-19	遺構外	須恵器	甕	—		—	—	体部	青灰色5PB6/1	良	—	外面平行叩き目。内面同心円叩き目。
18-20	遺構外	須恵器	甕	—		—	—	体部	内面青灰色5B6/1 外面灰色N6/	良	—	外面平行叩き目。内面同心円叩き目。外面一部に自然釉がかかる。
18-21	遺構外	須恵器	甕	—		—	—	体部	内面灰色N5/ 外面(自然釉)暗オリーブ灰色2.5GY4/1	良	—	外面平行叩き目。内面ハケ目。外面全面に自然釉がかかる。
18-22	遺構外	灰釉陶器	埦	—		—	—	口縁部～体部	内面(灰釉)灰白色5Y7/2 外面灰白色5Y8/1	良	—	9C後半～11C前半
18-23	遺構外	灰釉陶器	埦	—		—	—	口縁部	内面(灰釉)明オリーブ灰色2.5GY7/1 外面灰白色N7/	良	—	9C後半～11C前半
18-24	遺構外	灰釉陶器	埦	—		—	—	口縁部	灰白色N7/	良	—	軟質
18-25	遺構外	灰釉陶器	埦または皿	—		(6.4)	<1.4>	底部	灰白色N8/ 施釉範囲灰オリーブ色7.5Y6/2	良	—	9C後半～10C後半
18-26	遺構外	灰釉陶器	皿	—		5.8	<1.1>	底部	灰白色2.5Y8/1	良	—	底部外面回転糸切り後無調整のまま高台をナデてハリツケ。10C前半～10C後半。
18-27	遺構外	陶器	縁釉小皿	(9.2)		(5.4)	2.4	口縁部～底部	褐灰色10YR6/1 施釉範囲(鉄釉)暗褐色7.5YR3/3	良	—	底部外面回転糸切り後無調整。古瀬戸14C後半～15Cか
18-28	遺構外	土器	内耳土器	—		(24.0)	<1.8>	体部～底部	内面(炭化物)黒色N1.5/ 外面褐色7.5YR4/3	良	—	体部下部内面、底部内面に厚さ0.5mmの層状に炭化物付着。底部外面1mm位の砂粒多量。15C～16C。
18-29	遺構外	磁器	筒形碗	—		—	—	体部～底部	—	良	—	外面染付蛸唐草文。廃棄年代1790年代以降。
18-30	遺構外	瓦質土器	火鉢類か	—		—	—	口縁部～体部	灰色N5/	良	—	

１．調査区全景（北東から）

２．１号溝完掘状況（南東から）

３．２号溝完掘状況（東から）

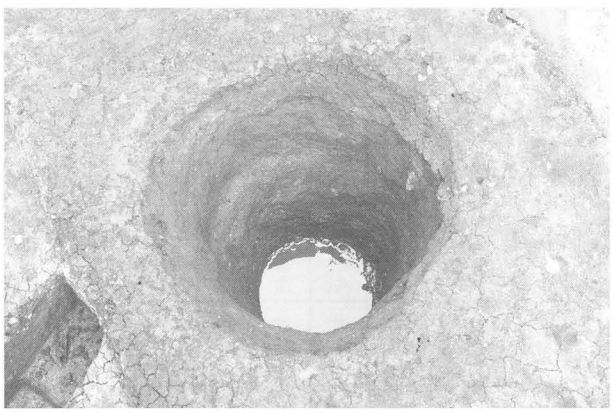
４．２号溝遺物出土状況（南西から）



５．３号溝完掘状況（北東から）

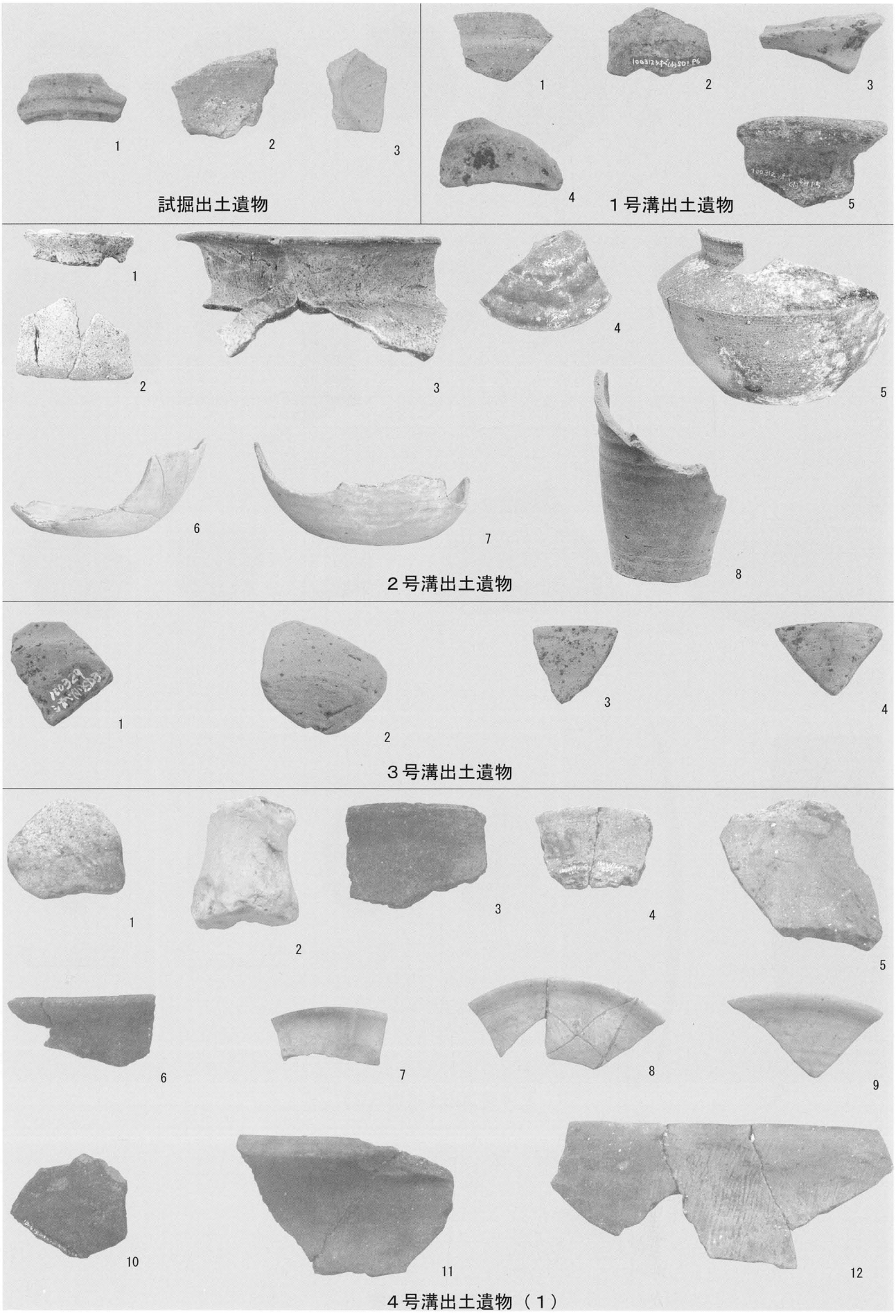
６．４号溝完掘状況（北東から）

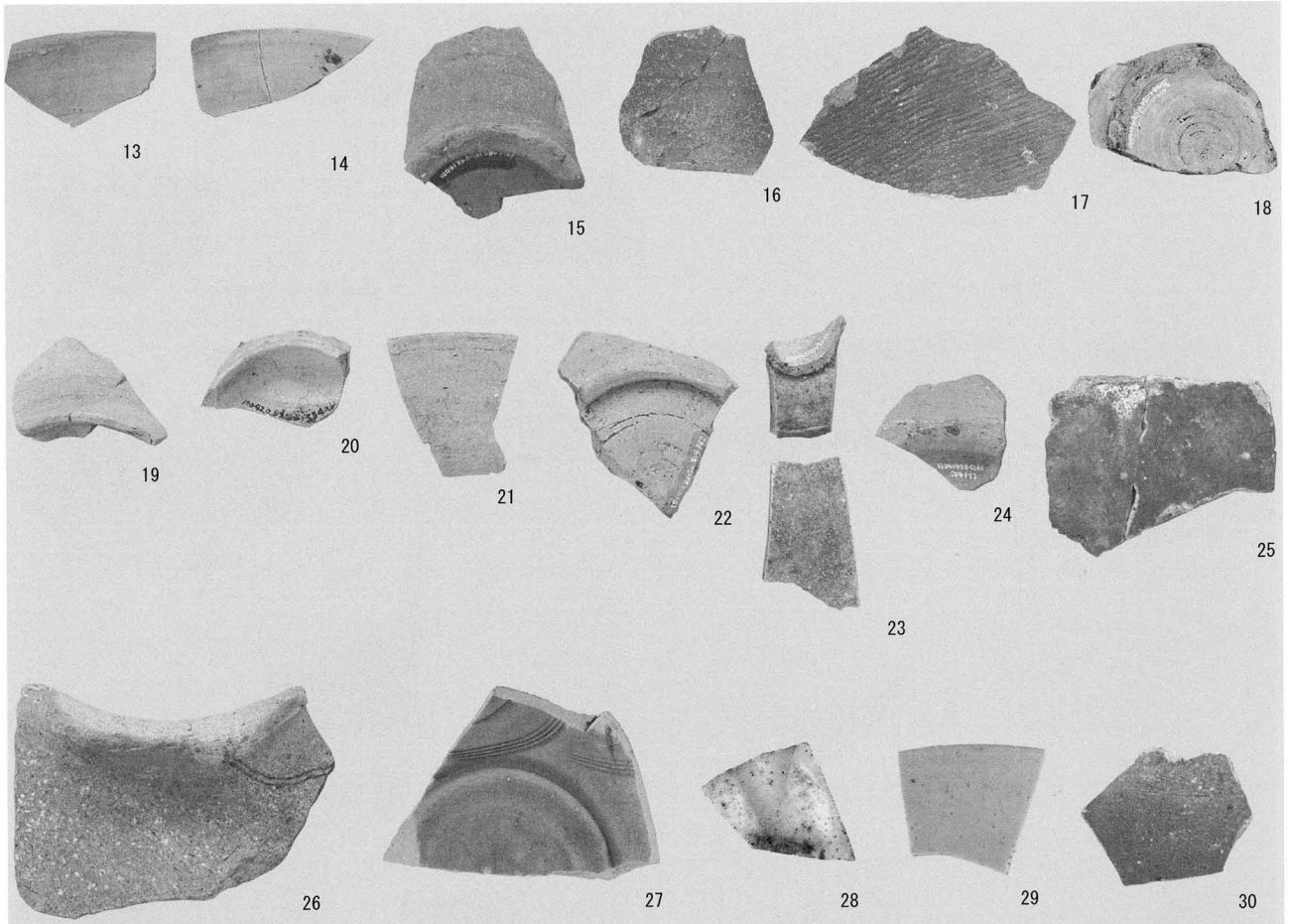
７．６号溝完掘状況（南西から）



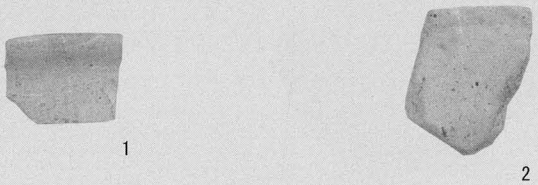
８．１号井戸完掘状況（東から）

図版２


1
2
3
試掘出土遺物
1
2
3
4
5
１号溝出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
２号溝出土遺物
1
2
3
4
３号溝出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
４号溝出土遺物（１）

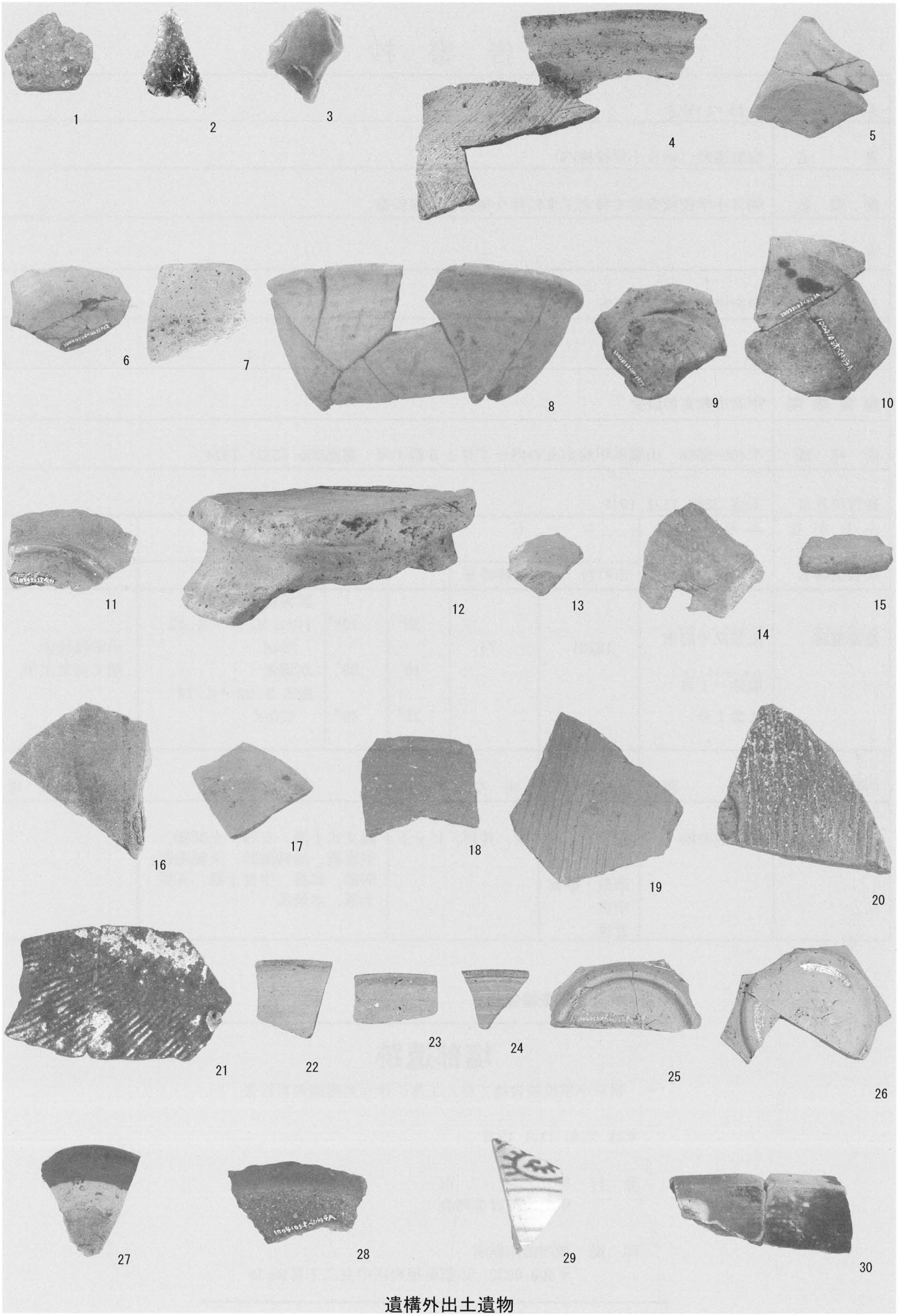


４号溝出土遺物（２）



１号井戸出土遺物

図版４


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

遺構外出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	しおべいせき
書　　名	塩部遺跡（朝日小学校構内）
副 書 名	朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	53
編 集 機 関	甲府市教育委員会
所　在　地	〒400-8585　山梨県甲府市丸の内一丁目１８番１号　電話055（223）7324
発行年月日	平成 22年 11月 19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
しおべいせき 塩部遺跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 しおべいっちょうめ 塩部一丁目 ４番１号	19201	74	35° 40′ 21″	138° 33′ 40″	試掘調査 H21．８．８～８．12 22㎡ 本調査 H22．２．22～４．24 430㎡	小学校校舎 建て替え工事

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特　記　事　項
塩部遺跡	散布地	縄文 古墳 奈良・平安 中世 近世	溝、井戸、ピット	縄文式土器、石器、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、陶器、磁器、中世土器、瓦質土器、木製品	

甲府市文化財調査報告53

塩部遺跡

－　朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書　－

平成 22年 11月 19日

発　行　甲　　府　　市
甲府市教育委員会

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032　山梨県甲府市中央二丁目10-18